第七回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

作品集

一般の部　入賞・入選作品

本大会では、できる限り多くの方が入賞・入選できるように、
原則として一人一賞とさせていただきました。

【一般の部・題詠「橋」】

最優秀賞　一首

わたくしを迎へに橋を渡るたび透きとほりゆく妣の首すぢ

秋田県秋田市　篠田　和香子

優秀賞　二首

点灯の関門橋を見上げつつ壇の浦にてわが家の恋し

群馬県沼田市　田村　鶴江

橋冷えし三月十四日の朝の円周率の小数点以下

東京都杉並区　庭野　治男

選者賞・伊藤一彦選　二首

橋を渡る月の足音に双峰（ふたみね）を欹てて居たり谷川岳は

群馬県沼田市　山崎　杜人

合併で失せてしまひし村の名はわづかに橋にその名とどむる

東京都町田市　谷川　治

選者省・小島なお選　二首

霧が降る月夜野大橋その先でＳ字のインター赤い灯（ひ）吸い込む

群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

夕暮れの電車わずかに重くなりここぞと踏ん張る橋桁の音

宮城県山元町　太田　君江

入選　二十首

一つとて同じ橋なしわが町に始まり銚子に至る何百

群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

利根川を渡れば仕事の顔となりまた母に戻る橋の不思議

群馬県千代田町　大谷　徳湖

この橋を渡る児童の熊避けと叩かれへこむ缶の在りけり

群馬県みなかみ町　番場　正夫

流木に遊んでおゆきと誘われて冬の川原の木の橋わたる

徳島県阿南市　小畑　定弘

花筏見ようと橋に乗り出せば朽ち木の温み腕に伝い来

東京都杉並区　井芹　純子

黒岩の渓谷沿いの信号は止まれが嬉し白き橋見ゆ

群馬県みなかみ町　奈良　由里子

手を繋ぎ沈下橋より空へ跳ぶ日焼けせし児らの水音高し

奈良県奈良市　堀ノ内　和夫

橋の無き古の恋強かりき荒瀬を徒(ただ)に渉(わた)りゆきしと

群馬県みなかみ町　杉山　久美子

小さくて誰も渡れぬ橋がある　わが口中の銀のブリッジ

東京都清瀬市　野原　てい子

下校中橋の真下に浮かぶ瓶誰にも相談できないどもり

山口県光市　松本　進

県境をひらりと跨ぐ大橋を薄目に瓢箪島眠りをり

愛媛県松山市　宇和上　正

虹の橋作る龍神おはすなら猫の帰り来る橋願ひたし

愛知県岡崎市　西村　愛美

逢ふ場所は橋のたもとと決めてゐし広瀬河畔にひとりたたずむ

群馬県前橋市　松下　昭代

千曲川に架かれる赤き鉄橋を渡り無言館へといよよ近づく

神奈川県愛川町　冨田　茂子

そびえ立つコンクリートの橋脚を下から数え顎が空向く

群馬県高崎市　イマミツ

猿ヶ京関所の跡に佇めば相生橋に牧水見える

群馬県みなかみ町　篠原　香代

街灯がともれば夜の顔となる相生(あひおひ)橋を君と渡りぬ

東京都文京区　原　ナオ

陸橋に立てば二上(にじょう)の山見えて河内六寺は幻の中

大阪府柏原市　田倉　あけみ

鉄橋を渡る貨車の音(ね)数えつつ数ⅡBの図形を睨む

大阪府河内長野市　木村　嘉子

朝の陽が橋に降るとき老犬と氷像のような会釈を交わす

東京都武蔵野市　北谷　雪

【一般の部・自由詠】

最優秀賞　一首

始祖鳥の翔んでた空の色で塗る一年生の運動会の絵

群馬県高崎市

大澤　澄代

優秀賞　二首

地下深く妣の妣へと還りゆく鍾乳石を落ちる水音

群馬県高崎市　佐藤　真理子

目が合って外した視線は空というプールで息継ぎ忘れて溺れる

岡山県倉敷市　堀　将大

選者賞・伊藤一彦選　二首

線香花火の火の玉の膨らみて落ちれば心ふぬけになりぬ

愛知県岡崎市　中村　佐世子

行く人も帰る人にも手を上げて今日はそれだけでいい人に会拶

三重県亀山市　岩谷　隆司

選者省・小島なお選　二首

死にたいと生きてみたいの行間を読める人から消えていく街

群馬県みなかみ町　どーメキ

冬の枝ためらいもなく陽に伸びてそれができたら続いてた道

埼玉県三郷市　湯島　京子

入選　二十首

語尾ひとつ定まらぬままポスト前　高く澄みたる終止形の空

石川県金沢市　橋本　枝折

立葵今年は誰も帰らない風の高さを飛び交ふあきつ

大分県国東市　原　比呂子

笑み交わし人と触れ合うひとときがふと重たいと思う雪の日

秋田県秋田市　蓬田　真弓

晩秋の景より失せし藁塚は古ぼけ黴てわが絵に立つも

山口県宇部市　藤井　重行

米粒が掃除機の中へ吸われゆくあの感触を分かち合う夜

群馬県沼田市　岡本　有未

今と昔母の記憶は入り乱れ今日のあなたは何歳ですか

群馬県みなかみ町　奥村　清美

古希となり卒寿の父のつぶやきが分かり始める夕食の膳

群馬県高崎市　齋藤　宏子

満月のごときケーキを分けながら素数の原理を口にする汝

京都府舞鶴市　新谷　洋子

一度だけ訪れた町みなかみは坪谷にも似て豊かな自然

宮崎県日向市　黒木　金喜

牛舎ごと三十頭の燃えゆきしその声父母やいかに聞きけむ

群馬県千代田町　大谷　光男

ぽつかりと虚空にひとつこの世から浮いてゐる雲私のやうに

青森県八戸市　木　立　　徹

姉案じ一字一字を拾うよな母の損じた下書き見入る

群馬県沼田市　内山　髙重

星と星むすんでできるお話を地球に読んであげている冬

群馬県大泉町　太刀花　秒

ご主人によろしくと恩師電話切る亡き夫（つま）今も生きててくれる

群馬県みなかみ町　ベネット　昭子

切られてるとは気が付かぬ銀杏の木は残った枝に若葉を付ける

徳島県阿南市　坂東　典子

錦秋の丸沼は今日も静かなりもう居ない君と食べた弁当

群馬県みなかみ町　増田　津恵

危ふくも好きに歩ける幸せを今に気付けり父さんごめん

群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

休日にまだ早けれど帰り来てスタッドレスタイヤに子は取り換へくるる

群馬県みなかみ町　小林　博子

「どこからも切れます」とある小袋の真実なのは一割未満

東京都小金井市　伊藤　裕司

ｒａｄｉｋｏから流れる声は聞き慣れぬ行きたい街のイントネーション

群馬県片品村　金子　美由紀

高校生以下の部　入賞・入選作品

高校生以下の部　投稿者内訳

学校名	投稿者数
宮城県クラーク記念国際高等学校仙台キャンパス	1 人
群馬県高崎商科大学附属高等学校	6 人
利根沼田学校組合立利根商業高等学校	2 人
群馬県立沼田高校	220 人
太田市立宝泉中学校	189 人
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校	84 人
埼玉県深谷市立藤沢小学校	1 人
東京都普連土学園高等学校	1 人
東京学館新潟高等学校	1 人
神奈川県立光陵高等学校	9 人
塩尻市立広陵中学校	15 人
塩尻市立塩尻東小学校	11 人
愛知県名古屋高等学校	1 人
三重県高田中学校	1 人
山口県山口大学教育学部付属光中学校	1 人
山口県光市立光井中学校	5 人
山口県光市立浅江小学校	1 人
山口県光市立島田小学校	20 人
種類別内訳 題　詠　400 首 自由題　807 首 合　計　1,207 首	569 人

【高校生以下の部・題詠「橋」】

最優秀賞　一首

お駄賃が緑の募金箱に落ち赤かった橋また赤くなる

群馬県高崎商科大学附属高等学校
1年　福島　環

優秀賞　自由題　二首

橋だって川下りとかしたくって動きたいだろうにそれなのに僕は

神奈川県立光陵高等学校　1年　山本未生

橋わたり　水面にうつるは　君のかげ　幻想みたい　キラキラ光る

群馬県太田市立宝泉中学校　1年　吉川奈那

選者賞・伊藤一彦選　二首

虹なんて偽りの橋に過ぎなくて未だに誰かを迷子にさせて

神奈川県立光陵高等学校　1年　洲﨑大知

水が増え川に隠れる沈下橋あるがままの水受け入れている

山口県光市立光井中学校　3年　深田和志

優選者賞・小島なお選　二首

もうスマホがないと夢さえ追えなくて生きてくための橋の充電

神奈川県立光陵高等学校　1年　鳥野空音

夢のなかで吊り橋をずっと揺らす君よそんな君に恋はやらない

群馬県高崎商科大学附属高等学校　2年　髙崎明音

入選　二十首

ふたりきり怖い怖いと言いながら進める足を止めぬ吊り橋

利根沼田学校組合立利根商業高等学校　3年　飯塚　ひなの

なぞの橋車も人も通れない通ったのは君だけだった

長野県塩尻市立広陵中学校　3年　安江　憲伸

ありがとう　たくさん使う　じょうぶで　安心できる　月夜野大橋

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校　2年　井田　仙太郎

夕暮れに橋から見上げる谷川岳夕日を浴びて化粧をしている

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校　2年　服部　陽向

いつも見る　静かに眠ったあの橋は　古くなっても眠ったままで

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校　2年　髙橋　美空

ありがとう　ぼくを見捨てず　導いた　恩師その名は　髙橋先生

群馬県立沼田高等学校　1年　金子　拓夢

吹割の橋にかかるは谿紅葉やっと来たかと思うこの頃

群馬県立沼田高等学校　1年　井上　詩苑

橋渡り揺れる体と心すら友と楽しむ青春時代

群馬県立沼田高等学校　2年　島田　倫太朗

恋愛の実りゆく様橋のよう　年月を経て徐々に繋がる

群馬県立沼田高等学校　2年　井上　空大

満月の夜の橋でも歩きたい　特別な日になってください

長野県塩尻市立広陵中学校　3年　熊井　聖馬

暑い日に　河に飛び込む　僕たちを　優しく見ている　あの眼鏡橋

長野県塩尻市立広陵中学校　3年　中野　正太

橋つくるどんなふうにかかんがえるむずかしいけどつくってみたい

長野県塩尻市立塩尻東小学校　4年　堀田　湖花

石の橋　何回たたくと　いいのかな　まだたたいてると　日がくれたよー

長野県塩尻市立塩尻東小学校　5年　内川　仁奈

橋わたる　真ん中立って　川を見る　河原で遊ぶ　子どもが好きだ

長野県塩尻市立塩尻東小学校　5年　笠原　優花

わたれない　わたりたいのに　わたれない　まほうの橋は　いつか消える

長野県塩尻市立塩尻東小学校　6年　松澤　結愛

一番に橋を渡って偉そうな君をずうっと見ていたかった

神奈川県立光陵高等学校　2年　髙間　結

普遍的愛を探して吊り橋へロマノフ朝のような足取り

神奈川県立光陵高等学校　2年　池野　弘葉

石橋を叩き壊していっそもう自分で鉄橋架けるくらいの

神奈川県立光陵高等学校　1年　上田　朱雀

八つ橋の皮から透けるあんころのような愛しさ目指しています

神奈川県立光陵高等学校　1年　佐野　晃太

橋本に怒られたなんて呟いて君のネクタイピンをながめる

学校法人高田学苑高田中学校　3年　櫻井　つむぎ

【高校生以下の部・自由詠】

最優秀賞　一首

新月は　昔の私を　かくしてくれる　明日の私は　前とはちがう

長野県塩尻市立広陵中学校　3年　平畠　彩桜

優秀賞　二首

ふきあれる心のようなおもて表紙　論理国語のはやてのごとく

群馬県立沼田高等学校　2年　井上千尋有

トランポリンの張力を夏の水よ持て足の着水するまでが空

群馬県高崎商科大学附属高等学校　2年　植原愛佳

選者賞・伊藤一彦選　二首

白い山　キラキラ光る　粉雪で　気づいたときには　雪だらけの僕

群馬県太田市立宝泉中学校　2年　三田　遼琥

ガーリックフランスのよう君を思う歯磨きしてもにおいは消えぬ

クラーク記念国際高等学校　3年　横溝　惺哉

優選者賞・小島なお選　二首

化粧する姉を鏡越しに見つつ月の所在を感じていた日

学校法人名古屋学院名古屋高等学校　1年　福田　匠翔

言葉として残せばきっと蘇る授業終わりの小さなあくび

神奈川県立光陵高等学校　1年　猪野田　涼奈

入選　自由題　二十首

社会科を　マスターしよう　刀狩り　参勤交代　よし休憩

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校　2年　馬場　亜優奈

エモいとはエモーショナルと異なりて閃光に眼を閉じたる心

群馬県高崎商科大学附属高等学校　2年　髙橋　健太朗

思い出は　みんなでつくる　カッターや　係の仕事　自分から動く

群馬県太田市立宝泉中学校　1年　鈴木　健太

ラケットを　へし折る力　作るため　筋トレをする　夏休み

群馬県太田市立宝泉中学校　1年　佐々木　凛人

花の王　その名もぼたん　でも私は　部活の王の　夏休み

群馬県太田市立宝泉中学校　1年　深津　蒼奈

久しぶり地域の祭り雨で流れ抽選会でくじひくかかり

埼玉県深谷市立藤沢小学校　5年　柴﨑　亮多

果樹園からほのかにかおるオレンジが全てオレンジ色にかがやいている

群馬県太田市立宝泉中学校　2年　根岸　悠登

ヒット打ち馬になりきり走りだす目指すは三つ前のホームベース

群馬県太田市立宝泉中学校　2年　三吉　れあ

人のむれ　くろき頭が　さまようなか　きょうもさがすよ　うんめいの人

群馬県太田市立宝泉中学校　2年　竹政　琉稀

風景画わざとちがった色にする自由に描いて表現する

群馬県太田市立宝泉中学校　2年　岩﨑　莉里愛

逃げまわる　今日が終わればもう平気一匹で走るお祭りの夜

群馬県太田市立宝泉中学校　2年　森田　絆奈

「本屋って住めないかしら」「かんたんよあなたが本屋になればいいのよ」

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校　2年　坂大　穂典

じゃあまたと赤じそ色に秋の空にみんなの木星やさしさ残る

群馬県立沼田高等学校　1年　町田　翔人

パーカーのチャックに絡まる赤い糸まだ断ち切れない君への想い

群馬県立沼田高等学校　2年　茂木　健太朗

自転車通河岸段丘の四季感じ風をあびつつ今日もペダルふむ

群馬県立沼田高等学校　2年　星野　平帆

白球を追い続けてたあの頃の過ぎゆく時間は何に変わるか

群馬県立沼田高等学校　2年　藤井　來夢

木が踊り校舎から見る赤城山は　どの植物よりも大きく立つ

群馬県立沼田高等学校　2年　山崎　伶音

蛙の子、鷹の子受験会場の僕はまだ蝌蚪、隣は鳶

群馬県高崎商科大学附属高等学校　2年　今井　沙羅

傘を巻き待ってる君に黄色い線だけを辿って逢う上野駅

群馬県高崎商科大学附属高等学校　2年　園田　愛美

入賞作品講評

◆選者紹介

伊藤　一彦（いとう　かずひこ）

昭和十八年（１９４３）宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水 ―その親和力を読む』、『牧水の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島　なお（こじま　なお）

昭和六十一年（１９８６）東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの手伝いをしているうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中の２００４年に最年少で角川短歌賞受賞。２０１６・２０２０年度「ＮＨＫ短歌」選者。コスモス短歌会所属。同人誌「cocoon」編集委員。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』、『展開図』などがある。

一般の部・題詠「橋」　最優秀賞

わたくしを迎へに橋を渡るたび透きとほりゆく妣の首すぢ

秋田県秋田市　篠田　和香子

「妣」は亡くなった母のこと。夢の場面でしょうか。この世への橋を渡って、昔のように私を迎えに来る母。けれど時間とともに遠くなってゆく母のさみしい後ろ姿です。

一般の部・題詠「橋」　優秀賞

点灯の関門橋を見上げつつ壇の浦にてわが家の恋し

群馬県沼田市　田村　鶴江

壇ノ浦と言えば、源氏と平氏の間で戦が行われ平氏が滅びた史実が有名である。作者はその史実の悲劇を思い浮かべつつ、わが家と家族への恋しさを募らせている。初句が見事。

一般の部・題詠「橋」　優秀賞

橋冷えし三月十四日の朝の円周率の小数点以下

東京都杉並区　庭野　治男

3．1415・・・とつづく円周率の小数点以下は切り捨てられてしまう。そのような三月十四日の今日の言葉にならない小数点以下の気持ちや空気感を繊細に大切に掬っています。

一般の部・題詠「橋」　選者賞・伊藤一彦選

橋を渡る月の足音に双峰（ふたみね）を欹てて居たり谷川岳は

群馬県沼田市　山崎　杜人

谷川岳の「オキの耳」「トマの耳」と呼ばれる二つの耳は有名。その耳を欹てているというのが面白いが、欹てているのが「橋を渡る月の足音」とは。その幻想の豊かな説得力。

一般の部・題詠「橋」　選者賞・伊藤一彦選

合併で失せてしまひし村の名はわづかに橋にその名とどむる

東京都町田市　谷川　治

合併でなくなった村の名は「月夜野」。美しい地名である。しかし、月夜野橋は残っている。「わづかに」「とどむる」に作者の愛惜の気持ちがしっかり出ている。

一般の部・題詠「橋」　選者賞・小島なお選

霧が降る月夜野大橋その先でＳ字のインター赤い灯（ひ）吸い込む

群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

霧が視界の霞む夜の高速路。月夜野大橋を過ぎてＳ字にカーブする道の向こうに自動車の赤いランプが消えてゆきます。「月夜野」の橋の名と霧の夜と、幻想的な闇と灯の景。

一般の部・題詠「橋」　選者賞・小島なお選

夕暮れの電車わずかに重くなりここぞと踏ん張る橋桁の音

宮城県山元町　太田　君江

その上を列車がゆくたびに鈍く軋む夕暮れの橋桁。走り続けた一日の疲れか、あるいは夕暮れの陽の重さか。朝よりもわずかに電車が重たくなったという感受が卓抜です。

一般の部・自由詠　最優秀賞

始祖鳥の翔んでた空の色で塗る一年生の運動会の絵

群馬県高崎市　大澤　澄代

中世代ジュラ紀に生息していたとされる始祖鳥。恐竜時代の空は何色なのでしょう。一年生のエネルギーと古代生物の生命力が生き生きと呼応する原色の空を想像しました。

一般の部・自由詠　優秀賞

地下深く妣の妣へと還りゆく鍾乳石を落ちる水音

群馬県高崎市　佐藤　真理子

長い歳月をかけて形作られた鍾乳石。したたる一滴一滴は、とめどなく過ぎる一刻一刻のよう。母の母、さらにその母へさかのぼる、私に繋がる時間軸を耳で感じているのです。

一般の部・自由詠　優秀賞

目が合って外した視線は空というプールで息継ぎ忘れて溺れる

岡山県倉敷市　堀　将大

「目が合って外した視線」とは恋人とむかいあっての場面と思う。その視線を空に向けたという下の句、比喩が鮮やかで成功している。結びの「溺れる」は完璧な恋心の表現だ。

一般の部・自由詠　選者賞・伊藤一彦選

線香花火の火の玉の膨らみて落ちれば心ふぬけになりぬ

愛知県岡崎市　中村　佐世子

たぶん二人で線香花火をしているのだろう。一人の場面でもよいが、恋心を感じる。線香花火の火の玉が落ちたぐらいで、ふぬけになる心。みずみずしい心の表現に感動した。

一般の部・自由詠　選者賞・伊藤一彦選

行く人も帰る人にも手を上げて今日はそれだけでいい人に会拶

三重県亀山市　岩谷　隆司

挨拶の大切さと素晴らしさをリズミカルに歌って明るい。三句「手を上げて」が印象に残るが、以下の下の句が楽しい。「会拶」は敢えての文字遣いだろう。

一般の部・自由詠　選者賞・小島なお選

死にたいと生きてみたいの行間を読める人から消えていく街

群馬県みなかみ町　ど　ー　メ　キ

「死にたい」と「生きてみたい」の狭間に揺れる感情。言葉にはならないそれを感じ取れる想像力の持ち主は、この世界を生きるには優しすぎるのかもしれません。

一般の部・自由詠　選者賞・小島なお選

冬の枝ためらいもなく陽に伸びてそれができたら続いてた道

埼玉県三郷市　湯　島　京　子

思い思いに枝を伸ばす冬の木。そのように自在に振る舞うことができたのなら、私の今は違う今になっていたのかもしれない。あるいはずのない道の先を切なく想像してしまう心。

高校生以下の部・題詠「橋」　最優秀賞

お駄賃が緑の募金箱に落ち赤かった橋また赤くなる

群馬県高崎商科大学附属高等学校　１年　福　島　　環

街の公共事業の募金箱でしょうか。緑色の募金箱に入れたお駄賃によって赤い橋が塗り直されてさらに赤くなったのです。お金の行く末と、緑から赤へのめくるめく展開。

高校生以下の部・題詠「橋」　優秀賞

橋だって川下りとかしたくって動きたいだろうにそれなのに僕は

神奈川県立光陵高等学校　１年　山　本　未　生

本当は橋だって動き出したくてうずうずしているはず。それなのに、僕は橋を踏んで渡ったり、その下をくぐったりして自由な肉体を生きている。結句の屈折した韻律も魅力。

高校生以下の部・題詠「橋」　優秀賞

橋わたり　水面にうつるは　君のかげ　幻想みたい　キラキラ光る

群馬県太田市立宝泉中学校　1年　吉川　奈那

恋の歌。心に想う人があるのだ。だから水面に「君のかげ」が映る。四句の「幻想みたい」が印象に残る。「幻想」でなく本当に「君」が見えたのである。

高校生以下の部・題詠「橋」　選者賞・伊藤一彦選

虹なんて偽りの橋に過ぎなくて未だに誰かを迷子にさせて

神奈川県立光陵高等学校　1年　洲﨑　大知

空に虹がかかると、人は虹の橋がかかったと言って喜ぶ。しかし、作者は虹は「偽りの橋」だとリアリスティックに歌う。偽りの美にだまされるなという、したたかな青春の歌。

高校生以下の部・題詠「橋」　選者賞・伊藤一彦選

水が増え川に隠れる沈下橋あるがままの水受け入れている

山口県光市立光井中学校　３年　深田　和志

沈下橋とは増水したときに川に沈んでしまうように作られた、欄干のない橋。作者は「あるがままの水受け受け入れている」と歌っているがその通りだ。生き方の理想を求める作。

高校生以下の部・題詠「橋」　選者賞・小島なお選

もうスマホがないと夢さえ追えなくて生きてくための橋の充電

神奈川県立光陵高等学校　１年　鳥野　空音

情報がなければ未来さえ思い描けない時代。友だちと繋がるため、社会を知るためのスマホを充電することは、自分と世界を結ぶ架け橋を充電していることになるのです。

高校生以下の部・題詠「橋」　選者賞・小島なお選

夢のなかで吊り橋をずっと揺らす君よそんな君に恋はやらない

群馬県高崎商科大学附属高等学校　２年　髙　﨑　明　音

夢で君は私にいじわるを仕掛けてくる。そんなことをする君に恋の思いはあげたくない。けれど、私が思うからこそ君は夢に出てくるわけでもあって。橋の上で揺れる思いです。

高校生以下の部・自由詠　最優秀賞

新月は　昔の私を　かくしてくれる　明日の私は　前とはちがう

長野県塩尻市立広陵中学校　３年　平　畠　彩　桜

月の周期が一めぐりすると、新月からまた満ち欠けが始まる。わずかの光の新月は「昔の私をかくしてくれる」と歌い、新しい「明日の私」への抱負を見事に歌っている。

高校生以下の部・自由詠　優秀賞

ふきあれる心のようなおもて表紙　論理国語のはやてのごとく

群馬県立沼田高等学校　２年　井上　千尋有

吹き荒れる疾風を思わせる抽象的なデザインの教科書の表紙。それはまるで渦巻く自分の胸の内を覗くようだと。言葉にならない心の内部と論理国語の対照が鮮烈です。

高校生以下の部・自由詠　優秀賞

トランポリンの張力を夏の水よ持て足の着水するまでが空

群馬県高崎商科大学附属高等学校　２年　植原　愛佳

飛び込み台から着水するまでの一瞬がスローモーションの映像として見えてきます。比喩の鮮やかな独創性、命令形と区切れの力強さ、大胆な空間把握。眩しいまでの表現力。

高校生以下の部・自由詠　選者賞・伊藤一彦選

白い山　キラキラ光る　粉雪で　気づいたときには　雪だらけの僕

群馬県太田市立宝泉中学校　２年　三田　遼琥

山に雪がつもっているのを美しいと思い眺めていたのだが、見ている自分も降ってきた粉雪で雪にまみれたと歌う。結句「雪だらけの僕」に喜びがあふれている。

高校生以下の部・自由詠　選者賞・伊藤一彦選

ガーリックフランスのよう君を思う歯磨きしてもにおいは消えぬ

クラーク記念国際高等学校　３年　横溝　惺哉

好きな「君」を忘れられないという歌はいくつもあるが、ガーリックフランスを登場させるとは新鮮で面白い。下の句はユーモアも感じさせる。若々しい恋の歌だ。

高校生以下の部・自由詠　選者賞・小島なお選

化粧する姉を鏡越しに見つつ月の所在を感じていた日

学校法人名古屋学院名古屋高等学校　１年　福田　匠翔

数年先の時間を生きる姉。鏡のなかで美しく、私の知らない姿になってゆく姉を眺めながら。この空のどこかに浮かぶ月の所在は、心許ない私の所在に淡く重なります。

高校生以下の部・自由詠　選者賞・小島なお選

言葉として残せばきっと蘇る授業終わりの小さなあくび

神奈川県立光陵高等学校　１年　猪野田　涼奈

言葉という形にすればずっと後からでも思い出せる。言葉として残せなかった物たちはどこへ行ってしまうのだろう。小さな眠気の余韻のなかで作者は言葉を信じています。

一般の部【題詠「橋」】作品集

２３２人　４５４首
投稿順に掲載
太字作品は入賞・入選

1 君と観る映画は全て橋幸夫今や懐かし青春時代
長野県箕輪町　市川　光男

2 みなかみに短歌送らん猛暑日にクリミヤ橋の爆発を詠む
宮崎県日向市　黒木　直行

3 逍遙や氷橋映け狼煙沁む星霜馨し静謐淀ぶ
熊本県熊本市　田上　智佳士

4 歌友よ無事橋渡り奥方に逢えて一息ついているかな
千葉県千葉市　うめさわ　かよこ

5 新橋のビル七階のスナックに水割を飲むさめた心で
東京都世田谷区　野上　卓

6 現世と来世をつなぐ橋掛り生死は一方通行でない
東京都世田谷区　野上　卓

7 廃線の噂されゐる鉄橋を渡る電車のけふも定刻
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

8 三歳が積木で作りし橋わたり一人の先生五人の園児
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

9 笹笛とふ美しき名をもつ釣り橋に恋を知りたる二十歳の遠し
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

10 生涯のもつとも遠き旅として大内峠の天橋立
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

11 **一つとて同じ橋なしわが町に始まり銚子に至る何百**
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

12 見えぬとも恋して今日も君を聞く「わたし橋から飛び降りたの」「わ
群馬県みなかみ町　どーメキ

13 「いいじゃん！」と高橋さんが笑うので今日から夢は神になること
群馬県みなかみ町　どーメキ

14 恥ずかしいけれど貴方と話したい揺れる吊り橋あと5メートル
群馬県みなかみ町　どーメキ

15 夕まぐれ風が盗む陽驟雨去り夜の帳にかかる虹橋
群馬県みなかみ町　どーメキ

16 滲みゆくくれない橋の手毬花くぐみ味わう五年目の夏
群馬県みなかみ町　どーメキ

17 歩道橋渡れば川風吹き上げて猛暑の町に瀬音清しき
岐阜県中津川市　古井　冨貴子

18 見送りは港の鴎桟橋を今し離るるふるさとさらば
愛知県知立市　星原　風堂

19 故郷の海山大きく見ゆるのに母の背橋は小さな不思議
北海道札幌市　鎌田　誠

20 目が荒く簀の子のような吊橋を冷や冷や渡る屁っ放り腰に
埼玉県所沢市　若山　巌

21 長い橋渡った様な母の顔バトンを握った吾に笑む遺影
宮崎県宮崎市　中村　由美

22 通勤に毎日通る交差点景色が変わる歩道橋の上
群馬県高崎市　秋山　充利

23 駅前の二度泣き橋を振り返り今年行くべき街にさよならす
岩手県盛岡市　森　義真

24 からす川にかかる君ヶ代橋半ば水の清しさ身をのり出して
群馬県高崎市　湯浅　慧子

25 七月の夜空に光る星の橋ふわりと渡るペガサスと龍
群馬県みなかみ町　田中　春枝

26 イヤホンで新しい曲聴きながらだらだら渡る君河原橋
群馬県沼田市　岡本　有未

27 虹の橋歩いてみたい幼少期夢はどこかにおき忘れてる
群馬県みなかみ町　篠原　忠

28 気合い入れチケット買って前橋へ　エスパルスとの試合楽しむ
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

29 日本人三大「〇〇」好きなのか宿題残こる天の橋立
群馬県みなかみ町　篠原　香代

30 ここの地の風景として（どうかなぁ）八ッ場にかかる様々な橋
群馬県昭和村　加藤　南風

31 出来立ての赤谷大橋祖父と見た壮大に赤く心に残る
群馬県みなかみ町　小林　はつ江

32 小雨降る月夜野大橋下り行く栃木長岡岐阜ナンバー
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

33 アメリカ橋奏でてみてるオカリナの響きに乗ってああ好きだった
群馬県みなかみ町　倉田　富夫

34 まるた橋自然の恵みホッとするみんなのくらし支え続けて
群馬県みなかみ町　深代　里子

35 お金を払い紐付けて高い橋から飛ぶという危険な遊び
群馬県みなかみ町　大山　智也

36 嗚呼パリの新橋我を呼んでいるカフェドゥポンヌフテラスが最高
群馬県みなかみ町　小室　史

37 わがままを言う子供らに話してたあなたは橋で拾った子だよ
群馬県みなかみ町　宮﨑　りえ子

38 ぬばたまの夜に浮かびぬ赤き橋ぬか雨のなか灯ゆれをり
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

39 降る雨に白くけぶりぬ赤谷湖に父の面影滲む桟橋
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

40 やはりここ橋のたもとの一軒家母とすすったそばの実恋し
群馬県みなかみ町　原澤　君子

41 雨上がり虹の架け橋あらわれたこれにて終わるペットロス日々
群馬県みなかみ町　原澤　君子

42 吊り橋の真下に鮎焼く煙して観光われを人は手招く
徳島県阿南市　小畑　定弘

43 **流木に遊んでおゆきと誘われて冬の川原の木の橋わたる**
徳島県阿南市　小畑　定弘

44 四十度！熱風わたる利根川の釣り人（びと）橋の影を動かず
群馬県前橋市　中澤　ひろみ

45 いざとなりや流されたっていいんだよ流され橋はしなやか、したたか
群馬県前橋市　中澤　ひろみ

46 戯言で血の淵泳ぐ事有れど親娘の絆縁橋渡し
大阪府大阪市　後藤　憲之

47 嫉妬心過ぎりや疎まし人の世ぞ扉開かにや渡る橋無し
大阪府大阪市　後藤　憲之

48 かってより此処にこうして架る橋来る人去る人問うなく渡す
山口県光市　瀬戸内　光

49 山も見ず足元みつめ四万十（しまんと）川の欄干なき橋歩いて渡る
群馬県前橋市　松下　昭代

50 狭量は年重ねしも越えられず「橋のない川」に橋を渡せず
群馬県前橋市　松下　昭代

51 空ちやんのつぶらな瞳　十歳（とせ）三つ虹の橋とや渡りけるなり
岐阜県中津川市　吉田　順代

52 地蔵橋（じぞうばし）大利根川を跨（また）ぐ橋スピード違反で捕（つか）まりし橋
群馬県沼田市　嶸　風

53 息子（こ）の嫁はこの人と決め声かけて一生一大の橋渡しする
東京都東村山市　浦壁　あけみ

54 人生の転機となりし陸橋上北アルプスの峯光るなり
千葉県船橋市　川﨑　富子

55 勅題の「橋」にちなみし抹茶碗遺品となりぬ若き日の友
千葉県船橋市　川﨑　富子

56 朝霧の橋から眺む浅瀬には鷺の降り来て雑魚を啄む
和歌山県田辺市　谷中　明子

57 寒風に立ち漕ぎをして橋を越え賀状配りしあの街は今
宮城県仙台市　角田　正雄

58 大晦日　橋に佇み利根（と ね）川を読みそして向かった上牧荘へ
群馬県伊勢崎市　齋藤　守男

59 年重さね未知なる橋は続きおり季節は変わり景色も変わる
群馬県みなかみ町　島崎　牧蕉

60 橋の句はとんと浮かばず一休さん真中通りあっけにとられ
群馬県みなかみ町　島崎　牧蕉

61 橋のない島とは知らず送られしハンセン病のあまたの人ら
岡山県新見市　浅井　和枝

62 かの時は橋涼みして君待ちし逝きて三年この湯宿の湯
愛知県蒲郡市　牧原　正枝

63 少年の夏の来たれば橋上より鼻をつまみて飛び込みありき
福井県小浜市　大江　青流

64 稲妻のたばしる空よ　くきやかに虹の橋たつ夫の誕生日
群馬県高崎市　神澤　静枝

65 モネの池太鼓の橋の懐かしく水面（みなも）賑はふ水蓮の花
埼玉県さいたま市　前田　明利

66 振り向けば七色の橋夕空に越えきし山の驟雨にけぶる
埼玉県さいたま市　前田　明利

67 彩雲の棚引き影絵の陸橋を中学生往く三人四人（みたりよたり）と
埼玉県さいたま市　前田　明利

68 **利根川を渡れば仕事の顔となりまた母に戻る橋の不思議**
群馬県千代田町　大谷　徳湖

69 新しき橋開通し旧道は不法投棄の場に変わり果つ
群馬県川場村　桑原　謙一

70 丸太橋父と渡りて見に入りし杉の樹齢は今や八十
群馬県川場村　桑原　謙一

71 一本のワイヤーに身をゆだねおり橋脚点検作業する人
群馬県川場村　桑原　謙一

72 **花筏見ようと橋に乗り出せば朽ち木の温み腕に伝い来**
東京都杉並区　井芹　純子

73 股覗きしてみる天橋立の松の緑が少し濃くなる
青森県青森市　髙橋　圭子

74 子供時は橋の手すり上、歩みたる　怖さ知らずの我なりき
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

75 大人になり恐い物だらけ　石橋を幾度たたけど渡らぬ我なり
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

76 幼き日　夏草燃ゆる広瀬川の　橋や河原で父と遊びぬ
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

77 夏休み　祖母の故郷の尾張吊橋　又従兄弟（またいとこ）達と山野、駆け抜け
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

78 父は、いつも主催者テント　橋上で母と見上げる境（さかい）利根川花火大会
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

79 薬大時、友と巡りぬ金沢の　橋の川面に揺れし灯（ともしび）
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

80 足利の橋の下で見し花火　父のエピソード大笑いし夏休み
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

81 学友（とも）３人、渡良瀬川の橋上で　花火よりも話しの華咲き
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

82 利根川の上武大橋、父の迎えで渡りし帰省の薬大時代
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

83 若き日々、上武大橋越えると　都会へ仕事のスイッチ・オンなり
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

84 緊張とトキメキで　お茶の水橋、渡りし我は医薬取材に
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

85 聖橋（ひじりばし）、片岡孝夫似のデンティストと偶然再会　若葉の季節に
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

86 はとバスでレインボー橋母（ブリッジ）と渡り　ヒルトンベイヘドレスアップツアー
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

87 吉野橋の向かひは過疎のとなり村伯母の廃家が真向かひ迎ふ
山口県宇部市　藤井　重行

88 落武者の末裔ひそかに暮らしたる母袋子（ほろこ）の里に架かる吊橋
青森県八戸市　木立　徹

89 いくつもの橋をわたりて今ここに見下ろしてゐる濁流の川
青森県八戸市　木立　徹

90 戦渦の夜生死を分けしこの橋は今なほつなぐ東海道を
静岡県藤枝市　杉本　弘子

91 幼き日木の橋飛び越え学校へすでに無き橋渡る夢見る
群馬県高崎市　木暮　ヒサ

92 雨だれの上がりし蒼の草原に陽さし伸びるや不意にかけ橋
千葉県柏市　中村　弘

93 大沼の神橋いまは影もなし水面の褪せしさざ波模様
群馬県伊勢崎市　野口　弘

94 高崎の友が前橋引っ越して県内なのに遠く感じる
群馬県藤岡市　神田　恵美子

95 手術終え少し歩けるこの脚で今日はあの橋のコスモスみようか
大阪府羽曳野市　赤澤　皆春

96 ももちゃんと月を見ていた橋に立つ七回忌は令和八年
群馬県みなかみ町　奈良　由里子

97 **黒岩の渓谷沿いの信号は止まれが嬉し白き橋見ゆ**
群馬県みなかみ町　奈良　由里子

98 湖に架かる吊り橋長い旅母のうしろを見ながら進む
群馬県みなかみ町　田中　春枝

99 橋の絵が西側の壁にあったはずもう行ってないピアノ教室
群馬県沼田市　岡本　有未

100 地図帳の起点と成った日本橋聖地巡礼集うビル群
群馬県みなかみ町　篠原　忠

101 真夏日の桟橋の下日差し避け海水浴を楽しむ親子
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

102 友と走る残り七キロの藤原湖水門橋より坂を見上げる
群馬県みなかみ町　篠原　香代

103 夏休み家族が揃う楽しみは山や島での自立の準備
群馬県昭和村　加藤　南風

104 桑を背負い丸太橋渡った養蚕盛んな昭和の時代
群馬県みなかみ町　小林　はつ江

105 夕暮れの上野駅前歩道橋頬杖ついて人波見つめる
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

106 浴衣姿着て駒形橋の人混みで写真を一緒に声かけ多し
群馬県みなかみ町　倉田　富夫

107 仕事柄呟き確認橋と端暑いと厚い職業病
群馬県片品村　金子　美由紀

108 この橋を渡った先は冒険と走るかげぼうし夏草かおる
群馬県片品村　金子　美由紀

109 橋と橋幸せ結ぶ丸太ぎのみんなを支え一本の徳
群馬県みなかみ町　深代　里子

110 利根川の「愛の渡し」と名のついた橋渡る時だけ手を繋ぐ
群馬県みなかみ町　大山　智也

111 対岸に渡れる日など来るものか橋のない川ただ流れゆく
群馬県みなかみ町　小室　史

112 赤い橋みなかみ町のあちこちにテンション上がるその色が好き
群馬県みなかみ町　宮﨑　りえ子

113 赤き橋渡れば見ゆる山門の長き石段黄泉へと続く
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

114 橋に立ち落葉のゆくへ眺むれば蜻蛉とまりて束の間休む
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

115 恐山三途の川の赤き橋わたれば母に会へる気のする
茨城県鹿嶋市　児矢野　雅恵

116 一緒にと祖母が手をとり橋わたる「行けぬ」と離し目覚める深夜
茨城県鹿嶋市　児矢野　雅恵

117 住井すゑ『橋のない川』読み切れぬ出自の重さ胃に堪へたり
茨城県鹿嶋市　児矢野　雅恵

118 出来たての瀬戸大橋を渡る時子らは眠りぬただ海青く
群馬県高崎市　佐藤　真理子

119 敗戦とふ橋を渡りき日本はかけ替へ架け替へ今戻り橋ぞ
群馬県高崎市　猪俣　軍司

120 橋、三橋立ち位置違へて歌ってた利根の渡しの女船頭を
群馬県高崎市　猪俣　軍司

121 昨日まで視界の外の車椅子橋を渡ればいつもの暮らし
宮崎県宮崎市　荒尾　洋一

122 前橋の心の故郷広瀬川朔太郎の詩朗読をする
群馬県前橋市　小畑　吉克

123 橋架けの不思議と夢を選びし息子十五橋目の画像送り来
群馬県沼田市　蝋山　恵子

124 橋脚の築造工事宮川に寒風の中起重機が舞う
岐阜県飛騨市　野村　訓啓

125 橋の袂に手を振る母の何時しかに朧となりし学童疎開
群馬県伊勢崎市　木村　あい子

126 以前には三つの橋の架かりをり相生橋が国道つなぐ
群馬県みなかみ町　奥村　清美

127 吊橋の架かりし時はいつの日か恐恐渡る記憶の残る
群馬県みなかみ町　奥村　清美

128 紅葉の谷を見下ろす赤き橋バンジージャンプの掛け声ひびく
群馬県みなかみ町　奥村　清美

129 橋の下こはごは覗く岩角にゆらりと黒き魚影の動く
群馬県みなかみ町　奥村　清美

130 いつの日か渡つてしまふ虹の橋その日の遠くあれよと願ふ
群馬県みなかみ町　奥村　清美

131 山行中丸木橋から滑落す落ち行く友を只眺め居る
群馬県みなかみ町　野澤　武

132 歩道橋車社会の誤算かや道路渋滞今日も見下し
群馬県みなかみ町　野澤　武

133 半世紀やっと日を見る日本橋仐(かさと)除れ空にお江戸が映る
群馬県みなかみ町　野澤　武

134 台風で板橋流る渡し舟舟頭さんの長竿の滴く
群馬県みなかみ町　野澤　武

135 橋の底上が運ぶや人車凜と支えし幾何学模様
群馬県みなかみ町　野澤　武

136 仏壇にお供えされた八ツ橋のニッキの香り好きになれない
岡山県倉敷市　堀　将大

137 六千歩の長寿効果に促され今朝橋の下に牛蛙鳴く
愛知県豊橋市　篠田　武子

138 結婚に張り渡された吊橋を「何とかなるさ」青さが押した
愛知県豊橋市　篠田　武子

139 崖くずれにかけ渡された仮の橋山ガールの足体裁捨てし
愛知県豊橋市　篠田　武子

140 あの橋を渡れば当然君がいる信じられてた昨日が遠い
鹿児島県鹿児島市　佐藤　橙

141 丸太橋渡りて峡に棚田ありまゝに群がりヒガンバナ咲く
群馬県高山村　割田　良次

142 雨あがり夕靄にかすむ山裾の集落つなぐ虹の掛橋
群馬県高山村　割田　良次

143 橋台の危険水位を示す線はるかに越へた昨夜の豪雨
群馬県高山村　割田　良次

144 この小川渡れば直ぐに汝の家橋の袂が逢引の処
群馬県高山村　割田　良次

145 戻ること叶はぬ三途の橋渡り未練残して先逝きし妻
群馬県高山村　割田　良次

146 橋のなき谷なる時もありにけむ観光バスの連なりてゆく
群馬県高崎市　井田　善啓

147 ブラウスに風をはらませ立ち漕ぎに橋を越えゆく秋の少女子
群馬県高崎市　井田　善啓

148 八ツ橋のチョコレート味いちご味せっかくだから両方確保
群馬県みなかみ町　田中　春枝

149 くりの木の吊り橋揺れる靴の跡雨にまみれて新たな跡に
群馬県みなかみ町　篠原　忠

150 はじめんが二十四時間橋の上過酷な企画寝転んで観る
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

151 おんぶして渡り切ったら恋叶う試しに行った中之島大橋
群馬県みなかみ町　篠原　香代

152 彼の地へと渡れば届いた遠き橋振り返りつつ此の岸を這う
群馬県昭和村　加藤　南風

153 この橋を渡ればそこは霊泉の湯　憂いも滝の汗と流れる
群馬県みなかみ町　小林　はっ江

154 えぇあれが月夜野大橋指をさす赤城の原のコテージの前で
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

155 渡ります見上げるときも海ほたる頭がさがる飛びの働き
群馬県みなかみ町　倉田　富夫

156 新橋のみんなそろって祝酒ほろ酔い気分カラスもみてる
群馬県みなかみ町　深代　里子

157 自転車を二人並んで押しながら橋を渡れば君の住む町
群馬県みなかみ町　大山　智也

158 橋渡る風が一本連れてゆく緑の夏と蜩（ひぐらし）の道
群馬県みなかみ町　小室　史

159 あかね橋超えて向かうは四万の宿熱めのお湯に憂いを流す
群馬県みなかみ町　宮﨑　りえ子

160 赤き橋に立ちて太宰を思い出づ「生くるために死ぬるのか」と問ふ
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

161 **手を繋ぎ沈下橋より空へ跳ぶ日焼けせし児らの水音高し**
奈良県奈良市　堀ノ内　和夫

162 手をひかれ母と渡りし荒神橋（こうじんばし）孫と渡らむひぐらしの鳴く
群馬県東吾妻町　青木　ソメ

163 幾とせと人馬車を渡らせし荒神橋（こうじんばし）に秋アカネ舞ふ
群馬県東吾妻町　青木　ソメ

164 **点灯の関門橋を見上げつつ壇の浦にてわが家の恋し**
群馬県沼田市　田村　鶴江

165 高速の片品（かたしな）川橋霧のたち朝日にけぶる逆光の中
群馬県沼田市　田村　鶴江

166 万葉の古歌に詠まれし徒渉橋の名となり親しみのわく
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

167 月夜野の橋よりみゆる白銀の谷川岳に勝る山はなし
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

168 赤谷川洪水のたび流されし丸太の橋も今はなつかし
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

169 なぐるみから利根川みれば三つ程橋のかかりて人々行き交う
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

170 涼を呼ぶ通潤橋の水しぶき国宝指定の水晶の玉
宮崎県宮崎市　熱田　民恵

171 大桟橋のクイーン・エリザベスより下船する世界の絹の擦れ合ふ音す
茨城県つくば市　大和　乙女

172 ともだちに貸したまま長き青春を彷徨つてゐる『明日に架ける橋』
茨城県鹿嶋市　大熊　佳世子

173 焼夷弾降り来る夜道にはぐれたる母を呼びつつ逃げし橋の下
群馬県前橋市　鵜野　敏子

174 夢の中橋作りした父がいるごめん母さん僕は父似だ
群馬県高崎市　齋藤　宏子

175 僕と君橋渡しした大伯母は今日もターシャの庭にいるかも
群馬県高崎市　齋藤　宏子

176 この橋を渡り切れれば別世界あるかも知れぬ十九の吾に
群馬県高崎市　齋藤　宏子

177 青春の蹉跌いくたび人知れずいつもの橋にきて泣きし日よ
東京都町田市　谷川　治

178 **合併で失せてしまひし村の名はわづかに橋にその名とどむる**
東京都町田市　谷川　治

179 **橋冷えし三月十四日の朝の円周率の小数点以下**
東京都杉並区　庭野　治男

180 海外の一本釣りの技能実習生（じっしゅうせい）帰りて国の架け橋と願う
東京都足立区　佐藤　春夫

181 火とぼしの橋の下から空みあげ夕暮迫るブルーモーメント
群馬県安中市　福田　誠

182 もみじ葉は萌ゆる黄緑なごみきて笹笛橋のゆるる上に立つ
群馬県みなかみ町　石坂　作次

183 ふる里の橋のたもとの地蔵尊紅き頭巾は装いあらたに
群馬県みなかみ町　石坂　作次

184 湯の郷の水上橋の風に憩うシャミの音消えども湯の香ただよう
群馬県みなかみ町　石坂　作次

185 通学に友と渡りし小袖橋時の世変わりて人影もなし
群馬県みなかみ町　石坂　作次

186 この橋は私ひとりで渡るのと友弱く笑むそこで目覚めぬ
群馬県みなかみ町　杉山　久美子

187 **橋の無き古の恋強かりき荒瀬を徒(ただ)に渉(わた)りゆきしと**
群馬県みなかみ町　杉山　久美子

188 長生橋に仕掛け花火のナイアガラ今はテレビで懐かしむのみ
新潟県新発田市　三浦　ユリコ

189 冬の空見上げて想う歳月に渡れなかった橋がある事
群馬県沼田市　桑原　環世

190 迷いつつ会うだけでもと勧められその夜に渡るかささぎの橋
茨城県東海村　風森　漣翠

191 相生の橋を見あげる宿に居て歌人は崖が迫ると詠みぬ
群馬県みなかみ町　番場　正夫

192 橋わたり香煙たちぬ堂参り弟子の語らい正義うなづく
群馬県みなかみ町　番場　正夫

193 登校の子らが向かいし遠山に眩いほどの虹が橋掛け
群馬県みなかみ町　番場　正夫

194 6キロの通学をする子等の路覗けば深し橋の架かりぬ
群馬県みなかみ町　番場　正夫

195 **この橋を渡る児童の熊避けと叩かれへこむ缶の在りけり**
群馬県みなかみ町　番場　正夫

196 また会おう夏が手を振るふるさとの橋から仰ぐ行合の空
東京都港区　夏野　ひぐらし

197 兵士這うドニプロ河の橋頭堡　芽吹いてますか小さな花は
東京都港区　夏野　ひぐらし

198 歩道橋おりるとそこにきみがいておかえりと笑う夕陽がきれい
東京都港区　夏野　ひぐらし

199 草津町旅の帰り路列車にて鉄橋渡れば吾が彩の国
埼玉県深谷市　強瀬　忠昭

200 歩道橋渡る高校生の群れ原石磨きに行く朝の道
埼玉県深谷市　強瀬　忠昭

201 手みやげの八橋煎餅パリポリリ一人旅せし十歳児かな
京都府舞鶴市　新谷　洋子

202 大根の双葉増へ来てそよそより小橋を渡る里のゆふぐれ
京都府舞鶴市　新谷　洋子

203 ひとけなき橋のたもとにほのほのとあさむらさきの藤袴かな
京都府舞鶴市　新谷　洋子

204 紅葉の待兼山のふもとべの石橋界隈すずろわびしき
京都府舞鶴市　新谷　洋子

205 いまははやただに愛しき帰還兵平桟橋まぼろしの橋
京都府舞鶴市　新谷　洋子

206 源流と平野の橋は桁違い人の世に似て小から大と
宮崎県日向市　黒木　金喜

207 村と村結びて架かる橋なるにわが初恋を結びてくれず
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

208 降り出でし京の五条の橋の上を行き交ふ傘に淡雪かづく
神奈川県厚木市　井上　勝朗

209 永らへてこれが仕舞と京の旅けさわくわくと渡月橋渡る
神奈川県厚木市　井上　勝朗

210 村人足に吊橋塗りをしたと言ふ夫は久なる笑顔を見する
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

211 新顔に吊橋塗りを説きたると人足終り汗だくの夫
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

212 防腐剤の残る匂ひに一礼し村の財（たから）の吊橋渡る
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

213 牧水の愛受けとめてみなかみは歌の橋架け短歌の街へ
群馬県千代田町　大谷　光男

214 **橋を渡る月の足音に双峰（ふたみね）を欹てて居たり谷川岳は**
群馬県みなかみ町　山崎　杜人

215 橋梁に上毛（かみつけ）の風嘶きて我が帽奪い走り去りにき
群馬県みなかみ町　山崎　杜人

216 開口端反射の原理ききながら陸橋をのぼり月に近づく
群馬県みなかみ町　山崎　杜人

217 袴線橋の柱に傷つけられているサヤとユウヤの永遠の愛
群馬県みなかみ町　山崎　杜人

218 山国に雨の少なき夏の果橋高く思ふ川細ければ
群馬県沼田市　平井　敏江

219 越後路へ曲る大橋登りゆく車窓に清（すが）し県境の風
群馬県沼田市　平井　敏江

220 若き頃砂利を背負ひし桟橋は今はなく稼働するのは二台の重機
群馬県沼田市　今井　栄一

221 駄々っ子のように齢を重ねしか橋が苦手な日野正平は
東京都清瀬市　野原　てい子

222 **小さくて誰も渡れぬ橋がある　わが口中の銀のブリッジ**
東京都清瀬市　野原　てい子

223 消ゆるともほろびはしない虹の橋人類つなぐ永遠の橋
香川県丸亀市　寒川　靖子

224 湯の街へ送り迎への幾年月栄枯を語る峡の石橋
群馬県沼田市　内山　高重

225 バンジーと岳に向って宙に舞ふ諏訪峡大橋夏の賑わひ
群馬県沼田市　内山　高重

226 母さんはニツキの香りが好きでした今日は土産の八ツ橋供ふ
群馬県沼田市　内山　高重

227 いけんいけんこっちのぞいてどねーせるほ　笑いもとれる天の橋立（あまはしだて）
群馬県みなかみ町　松浦　覺

228 はかばかしというところついばかばかし助け舟あり　桟橋でピース
群馬県みなかみ町　松浦　覺

229 助け舟　バカはお前だのクラッカー　古すぎませんか　とほほの架け橋
群馬県みなかみ町　松浦　覺

230 橋の名はラーレライと答ふ夏の日の嘘ラインのごと川を下りぬ
群馬県みなかみ町　松浦　覺

231 氷山を威嚇するよな軍艦の艦橋にらむ金髪ペンギン
群馬県みなかみ町　松浦　覺

232 牧水がふりわけ荷物で橋わたるかつこよきかな旅のファション
岡山県新見市　井原　志津枝

233 幼なき日橋の上にて子鴨追い時過ぎて秋君二十二に
群馬県高崎市　木内　寿子

234 蒼天に繋がる橋かどこまでもすすきの揺るる郷愁の道
群馬県みなかみ町　中島　早苗

235 虹の橋みなれし景色に感嘆符サイエンスではなくファンタジー
群馬県みなかみ町　中島　早苗

236 石組みに遺る煉瓦のサークルは軽便軌道橋脚の基部
兵庫県宝塚市　小竹　哲

237 綾取りの橋を作りし祖母の部屋柔らかき陽は眠りを誘う
岐阜県飛騨市　江尻　恵子

238 その昔父の浮気で死にたいと母抱き締めて橋を去り行く
三重県亀山市　岩谷　隆司

239 橋上で人と会いたり知らぬ人手を上げ言言えぬ今日は良い日で
三重県亀山市　岩谷　隆司

240 橋渡る川下に見て橋渡る不思議なものよ足に水あり
三重県亀山市　岩谷　隆司

241 思春期に大人へと渡る橋のあり引き籠もる子の心情思ふ
埼玉県朝霞市　金澤　隆男

242 **下校中橋の真下に浮かぶ瓶誰にも相談できないどもり**
山口県光市　松本　進

243 底に在る故郷の橋を見下ろして手を合はせをり白き橋より
愛媛県松山市　宇和上　正

244 **県境をひらりと跨ぐ大橋を薄目に瓢箪島眠りをり**
愛媛県松山市　宇和上　正

245 赤橋の袂の赤橋バス停にシスターひとり秋の日の射す
愛媛県新居浜市　大賀　康男

246 真夜中のだあれもゐない渡月橋のうへを君とゆく大人になつた
群馬県大泉町　太刀花　秒

247 石橋を叩き割るより音を聴く良さを君から学んで師走
群馬県大泉町　太刀花　秒

248 彼方より吾を呼ぶものきりきりとこころのなかに揺るる吊り橋
群馬県大泉町　太刀花　秒

249 いくさ後の貨物線路の幻の石の橋脚ひとつ聳える
群馬県大泉町　太刀花　秒

250 アカシアの花の香りに寄りたくて遠回りする県境の橋
群馬県藤岡市　清水　静子

251 花火上げ村人総出に祝ひたる真つ赤な橋を獣が今は
群馬県藤岡市　堀口　りつ子

252 開通式控へし橋に寝転べば狭くて蒼きふるさとの空
群馬県藤岡市　堀口　りつ子

253 戻れぬよう渡らば橋を焼きたしと思うほど良き想い出無き地
岐阜県郡上市　海神　瑠珂

254 日本へ還れた歓びかみしめて桟橋渡る引き揚げの途
群馬県みどり市　志田　貴志生

255 冬迫る散歩途中の橋の下湯気か煙か段ボールの家
群馬県みどり市　志田　貴志生

256 真赤なる夕焼け空に触れたくて杖つき孫と歩道橋登る
群馬県高崎市　湯浅　茂子

257 大橋を渡れば君住む桃源郷「うららの郷（さと）」と字（あざ）は呼ばれし
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

258 訪ねたる橋のたもとに「君の名は」ドラマに銭湯人の影消ゆ
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

259 大吊橋竦（すく）む足元背中より夫の一声二歩が三歩に
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

260 谷間（たにあい）に黒岩八景橋いくつ赤谷の流れ利根（とね）川となりたり
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

261 電線を橋のごとくに猿軍団杣の谷あい行ったり来たり
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

262 **虹の橋作る龍神おはすなら猫の帰り来る橋願ひたし**
愛知県岡崎市　西村　愛美

263 吊り橋を夫と手を取り渡るごと還暦迎へ新たな仕事
愛知県岡崎市　西村　愛美

264 望郷の橋を渡ればふる里へ訛り懐かし風となりゆく
大分県国東市　原　比呂子

265 橋本のわが家（いえ）祭りの地車の通る要所よテレビにうつる
大阪府岸和田市　向井　靖雄

266 父が逝き母は越ゑたる利根川を橋渡らずに三年が過ぎ
千葉県柏市　佐藤　まれよ

267 秋風に揺れてはかなき吊橋に孫と渡りし遠き日の見ゆ
群馬県みなかみ町　荒木　洋子

268 利根川の涼風吹き上ぐ橋見上げ若きら手をふりラフティングゆく
群馬県みなかみ町　荒木　洋子

269 橋下の川に板掛け菜をあらふ越後の秋の風情なつかし
群馬県みなかみ町　荒木　洋子

270 何度でも再構築を試みん友へ繋がる架け橋なれば
群馬県安中市　半田　あけみ

271 **逢ふ場所は橋のたもとと決めてゐし広瀬河畔にひとりたたずむ**
群馬県前橋市　松下　昭代

272 爆死ししあまた遺体に思ひ馳す前橋空襲は八月五日
群馬県前橋市　松下　昭代

273 十指より浮ぶ記憶は綾取りの橋の向こうの幼なる吾
愛知県岡崎市　中村　佐世子

274 草木も逃げ場あらざる猛暑日の葛橋桁に大手広げり
愛知県岡崎市　中村　佐世子

275 これの世に三途の川あり架かる橋渡り切らねばと百四歳言いき
愛知県岡崎市　中村　佐世子

276 北斎の『名橋奇覧』の矢作橋弱りし足にも渡りてみたし
愛知県岡崎市　中村　佐世子

277 三十代、四十代に七十代見方異なる『マディソングンの橋』
愛知県岡崎市　中村　佐世子

278 ダムの中のT字の橋の水深を知らねど工事の苦労を思ふ
山形県鶴岡市　大沼　二三枝

279 赤き旗ふらるる橋に停車する病名つげられし夫を助手席に
秋田県湯沢市　村田　磨理子

280 叶うなら虹のかけ橋駆け上がり君にききたいこと二つある
群馬県みなかみ町　ベネット　昭子

281 いつの間に山道の橋流されて飛び石の橋清流渡る
群馬県みなかみ町　ベネット　昭子

282 遠き日の祭囃子に子や孫がかけ来るを見し橋のたもとよ
茨城県笠間市　飯田　初江

283 等々力の渓谷に架かる太鼓橋高き梢の空の青さに
千葉県市川市　松田　恵子

284 赴任地に橋を架けると若き獅子ひとりで君は母に手を振り
大阪府堺市　名川　由江

285 高山の朱塗りの橋に音も無く雪降り積もる飛騨の山里
大阪府堺市　名川　由江

286 しらさぎと言う名の橋は羽広げ大河を海にゆったり流す
徳島県阿南市　坂東　典子

287 十八の君が手を振る歩道橋、夢に出たこと妻には内緒
岡山県瀬戸内市　小橋　辰矢

288 五年も前岩国の錦帯橋に娘の手借り木の橋五つ渡り越えたり
群馬県みなかみ町　増田　津恵

289 もみじ谷の大吊橋意地悪友ゆらくゆすれば一歩も歩けず
群馬県みなかみ町　増田　津恵

290 利根川辺に万葉歌碑あり傍に架かる橋の名徒渉（ただわたり）橋
群馬県みなかみ町　増田　津恵

291 虹の橋渡る織姫彦星へ年に一度の逢瀬の一夜
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

292 秋晴れの温泉（いでゆ）伊香保の河鹿橋紅葉と競う朱の欄干
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

293 みなかみ町二つの川に沢あまた幾つ有るやら橋の数
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

294 人生の幾山河を越え来しも三途の川の橋は見ざるや
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

295 丸木橋渡り小岩を飛び越えて上越国境登りて来たり
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

296 柊の木ぎを右手に土橋過ぎ山の上なる父の古里
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

297 秋の宙揺れるは祖谷のかずら橋兄妹の旅絆は深む
群馬県みなかみ町　阿部　伊亨

298 小一の春琴抄のロケもみじ今無きつり橋揺るる記憶に
群馬県中之条町　島村　暁星

299 千曲川に架かれる赤き鉄橋を渡り無言館へといよよ近づく
神奈川県愛川町　冨田　茂子

300 梓川に架かれる木造の河童橋を渡るに揺れて手すりにすがる
神奈川県愛川町　冨田　茂子

301 二重橋前に孫と娘と撮る写真ふるき昭和の歌口ずさむ
神奈川県愛川町　冨田　茂子

302 吊り橋を踊って渡るあなたには石橋叩く音は手拍子
東京都中央区　佐藤　直大

303 重みある言葉を使えば使うほど怪しさ満載「橋頭堡」とか
東京都中央区　佐藤　直大

304 歩道橋に亡き夫に似たる後ろかげ青き階段みあぐるばかり
大阪府豊能町　熊ノ郷　紀子

305 橋のした浅瀬に立てる青鷺の待ち構へしごと北へ飛び立つ
大阪府豊能町　熊ノ郷　紀子

306 阪神の優勝万歳　橋からの自殺行為の寂しき青春
埼玉県白岡市　中村　和江

307 利根川の橋で眺めり川上の百年前を明日の吾を
千葉県柏市　佐藤　和裕

308 高速の下を潜りてその下の川を眺めり日本橋とは
千葉県柏市　佐藤　和裕

309 この橋を越え濁流となりしこと忘れてならぬかの日の水害
岐阜県飛騨市　横山　美保子

310 「蓮華升麻が咲いていた」訪問医療（ほうもん）の橋本医師のカルテの末尾
群馬県高崎市　大澤　澄代

311 海山に瀬戸大橋は溶け込み来われに詠ましぬ故郷の歌
香川県三豊市　上久保　忠彦

312 トンネルも鉄橋も音が変わるのよ　ふるさと只見山間の村
群馬県高崎市　大塚　とみこ

313 吊り橋の向こうは異界ゆらゆらと柴倉山の懐に入る
群馬県高崎市　大塚　とみこ

314 父危篤鷺石橋は遠いいと吾を背負いて徒渉した父
群馬県前橋市　長谷川　陽子

315 電柱の橋田眼科の看板の目玉がコチラと流し目をする
愛知県名古屋市　清水　良郎

316 若者とすれ違ふ時ふしぜんにつと身構へり新月の橋
広島県広島市　小野　系子

317 歩道橋ゆっくり降りよ異国からキャリーケースも傷ついてくる
群馬県渋川市　忽滑谷　三枝子

318 離乳食と義母（ははの）の昼食ととのえて橋渡りゆく吾をさがしに
鳥取県琴浦町　中本　久美子

319 秋時雨諏訪峡大橋通りたる紅葉の山に虹の大橋
群馬県みなかみ町　林　好一

320 近道や小川にかかる丸木橋羽を休めた赤とんぼ居て
群馬県みなかみ町　林　好一

321 集落の長が架けたと針金橋揺られ近道学校通い
群馬県みなかみ町　林　好一

322 鉄橋を渡るＳＬ吼え行けば紅葉の嶽に一日遊びて
群馬県みなかみ町　林　好一

323 利根川の四季折々を望み来て笹笛橋へと晶子歌碑見ゆ
群馬県みなかみ町　林　好一

324 若き日は妬み悩むも幾度かなれど橋姫につひぞ出会はず
山口県山陽小野田市　山縣　満里子

325 新しき橋三本は両岸より坂を上りてまた坂下る
山口県山陽小野田市　山縣　満里子

326 猿たちは向ふ山から見てるらし橋かかりしと子連れで渡る
群馬県みなかみ町　関　和子

327 この橋を渡ると雪の嵩増す里にいく度訪ひしか
群馬県みなかみ町　関　和子

328 ロシアに老朽化した橋あるなりクアンディンスキー橋手すりなし
大阪府大阪市　みなかみ之川

329 岩国市錦帯橋存在す山口県代表の橋
大阪府大阪市　みなかみ之川

330 明石にて海峡の橋存在す淡路島と神戸を繋ぐなり
大阪府大阪市　みなかみ之川

331 瀬戸内海瀬戸大橋存在す橋からの夕焼け綺麗なり
大阪府大阪市　みなかみ之川

332 橋とは崩れ壊れる台風で後に強化補修するなり
大阪府大阪市　みなかみ之川

333 盆間近炎天の下草むしり先祖と我の橋渡しなり
群馬県みなかみ町　細谷　龍夫

334 瀬の音と笹笛橋に舞う紅葉浮いて沈んで流る紅
群馬県みなかみ町　原澤　朝則

335 黒煙を吐きつD51渡りゆく利根川跨ぐ鉄橋の上
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

336 鳴子峡橋より望む谷紅葉豪華絢爛錦絵のごと
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

337 岳仰ぎ月夜野橋を自転車で駅へ急いだ青春の日々
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

338 吊橋を渡り訪ねし野天の湯温もりの中もみじ葉が散る
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

339 青き空峡谷跨ぐめがね橋燃える紅葉ここち良き風
群馬県みなかみ町　原澤芳雄

340 紅葉を笹笛橋より満喫す帰省せし娘と夫を伴い
群馬県みなかみ町　小林博子

341 夢のヴリッジの中ほどに利根の流れを覗く人見ゆ
群馬県みなかみ町　小林博子

342 諏訪橋の上より向ひて谷川岳を描く人ありよき景ならむ
群馬県みなかみ町　小林博子

343 ほら義母（かあ）さん花ノ木橋の先に家ＩＣＵの四階の窓
群馬県榛東村　岸和夫

344 園児らの橋の上より手を振ればフォアーンとひとつ応じてくれる
神奈川県横浜市　髙山克子

345 太鼓橋に正装の二人微笑みし結婚式の前撮りをする
神奈川県横浜市　髙山克子

346 山を背に途絶えぬ人らの渡月橋艶めく紅葉見渡すかぎり
神奈川県横浜市　髙山克子

347 富士山麓橋の上を行く旅行者の数多は外人言の葉解せず
東京都杉並区　堀井邦子

348 鍬型（くわがた）虫を捕りしと男の子橋の上に亀まで持ち来見せつつ話す
東京都杉並区　堀井邦子

349 六文銭払わず橋を渡れるよう今は優しい人のふりして
埼玉県春日部市　藤澤由紀

350 在りし日の父母を囲みて伊香保路へライトアップのかじか橋に湧く
群馬県みなかみ町　澁谷典子

351 コロナ禍をくぐりて孫は京都へと笑顔でみやげ生八ッ橋や
群馬県みなかみ町　澁谷典子

352 新緑に汽笛が欲しいメガネ橋兄の残せし句集より出づ
群馬県みなかみ町　澁谷典子

353 念願の天の橋立八十路旅孫を伴いハネムーン辿る
群馬県みなかみ町　澁谷典子

354 只見線紅葉の中をゆったりと鉄橋知らす汽笛に歓声
群馬県みなかみ町　澁谷典子

355 下校時の遊びのひとつ吊橋を大きく揺さぶり宙を飛ぶこと
群馬県みなかみ町　石坂喜美江

356 牧水の歌読みたしと碑を訪ぬ逆巻く利根川かかれる橋の辺
群馬県みなかみ町　石坂喜美江

357 久方に相生橋の真中たつたそがれどきの湖黒ぐろと
群馬県みなかみ町　石坂喜美江

358 その昔月夜野橋は村境農村男女の恋物語
群馬県みなかみ町　真庭唯芳

359 おぼろ月橋にたたずむ影二つ桜吹雪が川面を染める
群馬県みなかみ町　真庭唯芳

360 秋風は月夜野橋を通りぬけ川面に落葉はや秋はゆく
群馬県みなかみ町　真庭唯芳

361 利根川の流れは速く白波の砕けるしぶきつり橋ぬらす
群馬県みなかみ町　真庭唯芳

362 利根川の月夜野橋におぼろ月波にただよう花筏散る
群馬県みなかみ町　真庭唯芳

363 いにしえの月夜野橋に昇る月源順（みなもとのしたごう）町の名月夜野
群馬県みなかみ町　真庭三枝子

364 小袖橋のぼれば大きな大地あり名胡桃城址ここにいすわる
群馬県みなかみ町　真庭三枝子

365 泪橋(なみだばし)逆に渡ったジョーよりも八百屋を継いだ西(にし)が気になる
新潟県長岡市　大竹　明敏

366 橋の辺に百五十年をたつ地蔵　目鼻失せるも子らを見守る
石川県金沢市　橋本　枝折

367 欄干に錆びて朽ちたる穴いくつ架橋五十年　金婚われら
石川県金沢市　橋本　枝折

368 映像に股旅姿の橋幸夫　佐久の鯉太郎の景はわが郷
長野県佐久市　依田　泰行

369 桟橋にひねもす釣りする老人は地蔵のごとき目で海眺む
群馬県渋川市　木暮　由利子

370 **わたくしを迎へに橋を渡るたび透きとほりゆく妣の首すぢ**
秋田県秋田市　篠田　和香子

371 この橋を渡ればそこは君のいたラベンダー咲くあの町ですね
北海道札幌市　後藤　明美

372 井堰橋わたりて戻る一時間八十路の身体労りながら
島根県出雲市　金山　黎子

373 暇々のウオークの道は神戸川馬木(まき)の吊橋銀色に輝る
島根県出雲市　金山　黎子

374 新しき大橋の下のぞきたる吸ひ込まれゆく谷底深し
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

375 すれ違う二人の友のかけ橋になれたらいいが何もできない
群馬県みなかみ町　桜　子

376 下関と角島むすぶ長い橋海と空との青に溶け込む
群馬県みなかみ町　桜　子

377 この橋はどこまで長く続くかな生きれば伸びるあの世への橋
群馬県みなかみ町　桜　子

378 いつの日か瀬戸大橋を渡りたい子規のふるさと尋ねて見たい
群馬県みなかみ町　桜　子

379 あの橋を渡れば夫に会えるかも幾度か思い今日も生きをり
神奈川県座間市　蓮見　孝子

380 大渡橋より父母の眠りたる榛名山麓あをく澄みをり
群馬県前橋市　久保田　桂子

381 足もとに安心しきって眠る猫こころの橋が二人にかかる
群馬県前橋市　久保田　桂子

382 窓一面朝焼け光る鐵の橋見えない鎧解き放たれる
群馬県高崎市　イマミツ

383 走る僕電車を橋で追い抜いて踊るSuicaはピボットターン
群馬県高崎市　イマミツ

384 間に合えとひたすら歩く橋の上連なるライトこぼれ落ちてく
群馬県高崎市　イマミツ

385 **そびえ立つコンクリートの橋脚を下から数え顎が空向く**
群馬県高崎市　イマミツ

386 だるまさん胸に抱きしめ渡る橋からっ風で痛む右耳
群馬県高崎市　イマミツ

387 東京へ荒川を越え鉄橋は最高気温を三度も下げる
埼玉県鴻巣市　秋山　楓

388 登れないつるつる石の太鼓橋架かっていたのは三途の川か
東京都小金井市　伊藤　裕司

389 ボコゴトと音の響いた木の橋は無口になりぬコンクリの今
東京都小金井市　伊藤　裕司

390 桧沢橋渡ればK君緘黙児　手だてに悩みし新卒の吾
群馬県富岡市　石井　ふみ子

391 幼き日つり橋渡りて川遊び富岡製糸場の下さなぎのにおい
群馬県富岡市　石井　ふみ子

392 京橋の画廊の続く一角に君の命の咲く部屋がある
神奈川県横浜市　小野　愛加

393 峡谷は早いろづきぬ復旧の第一白川橋梁のうへ
熊本県熊本市　下城　公秀

394 橋の下ひとり壁当てというより橋の脚当て汚れたボール
東京都文京区　遠藤　玲奈

395 国境の数だけ架ける青い橋あなたの方にそっと伸ばす手
福岡県福岡市　吉崎　謙作

396 祖母からも見えたのだろうか鉄橋を帰る列車の手を振る我が
群馬県高崎市　松本　由美子

397 人境にありて心を遠くする橋はたもちて友との忘憂
群馬県大泉町　福田　成雄

398 頼みます前橋駅へ行ったならアンバタ入りのクロワッサンを
群馬県みなかみ町　田中　春枝

399 かんざしをあの娘に買っただけなのに唄い継がれるはりまや橋
群馬県沼田市　岡本　有未

400 アマゾンは何処観て見ても橋が無い船をあつかい生きざま乗せて
群馬県みなかみ町　篠原　忠

401 山のなか大きな橋が架かってるすれ違うのは一台も無し
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

402 **猿ヶ京関所の跡に佇めば相生橋に牧水見える**
群馬県みなかみ町　篠原　香代

403 ガタンゴトシャシャシャシャシャシャシャシャゴトンガタ橋下に響く秋の午後二時
群馬県昭和村　加藤　南風

404 秋晴れのあじさい橋をスキップで渡る片手にご黒うさん
群馬県みなかみ町　小林　はつ江

405 **霧が降る月夜野大橋その先でＳ字のインター赤い灯吸い込む**
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

406 この先に進みたい繋がりたいと思いが架ける希望の橋
群馬県片品村　金子　美由紀

407 つかのまの虹のかけ橋いやされてすべてを忘れいついつまでも
群馬県みなかみ町　深代　里子

408 だっこして陸橋の上で手を振ると新幹線が応えてくれた
群馬県みなかみ町　大山　智也

409 石橋を叩かず渡り救われて　その繰り返し我が来し方は
群馬県みなかみ町　小室　史

410 カヤックに桟橋渡り乗り込んで未知の世界に行ってきまーす
群馬県みなかみ町　宮崎　りえ子

411 今は無き橋の下での川泳ぎ飛び交ふ歓声水の煌めき
群馬県安中市　新井　八重子

412 あの橋を渡ると我が家爆破されガザ市民が怒り指差す
長野県飯綱町　井澤　榮一

413 敗戦など子供に分からず野山駆け牛若丸と橋の欄
長野県飯綱町　井澤　榮一

414 夕焼けをともに眺めし歩道橋きっと我らも眺められつつ
神奈川県横浜市　赤野　恵祐

415 補助輪を外した孫の自転車が若葉の風に吊橋をゆく
長野県安曇野市　穂苅　真泉

416 手をひろげ千の光を呼び起こす暗渠に架かる蛍見橋で
神奈川県横浜市　山田　裕樹

417 渡り切る手前で母が「だれかいね」　記憶の橋がゆっくり燃える
島根県益田市　中村　風日（ふうか）

418 架かりいし橋は脆しか幻か距離置きたいと異腹の妹が
鳥取県米子市　生田　麻也子

419 石橋の欄干に凹（くぼ）　小雀の巣ほどの凹に雨水のたまる
福岡県大牟田市　西山　博幸

420 大正の昭和のころの悪餓鬼が彫りたるものか石橋の窪
福岡県大牟田市　西山　博幸

421 散歩して「みちしおばし」と知りたるは河口の反り橋　船が出てゆく
京都府舞鶴市　鯵本　ミツ子

422 余部（あまるべ）の朱色橋脚残されり明治の遺産あくがれの旅
宮崎県宮崎市　中村　葉月

423 石碑は万葉の河瀬を謡いおりそばに錆橋禁歩行札
群馬県沼田市　髙橋　幸男

424 黒岩に時代を示す五橋（いつつばし）新幹線に発電水路
群馬県沼田市　髙橋　幸男

425 大江戸の両国橋に関われり真田の殿様義人を生んだ
群馬県沼田市　髙橋　幸男

426 位牌分け喪服の襟に逆さ差し直ぐさま橋を渡れりと示唆
群馬県沼田市　髙橋　幸男

427 厚板は長さ一間尺の幅昔の棚田の澤を渡れり
群馬県沼田市　髙橋　幸男

428 **街灯がともれば夜の顔となる相生（あひおひ）橋を君と渡りぬ**
東京都文京区　原　ナオ

429 上昇す大鷲の眼に小さき橋さらに小さくなりて光れり
東京都三鷹市　みやもと恵美子

430 通勤中赤信号の橋の上洗面用具近づいてくる
群馬県みなかみ町　本多　義二

431 街路灯歩いて五分橋の側いらっしゃいませいらっしゃいました
群馬県みなかみ町　本多　義二

432 弥次さんと喜多さん出発日本橋助さん格さん後をおってく
群馬県みなかみ町　本多　義二

433 文庫本橋ものがたり雨の日に栞の紐に役割ありて
群馬県みなかみ町　本多　義二

434 丸太橋中ほどまでは来たけれどひきかえそうか三匹の猿
群馬県みなかみ町　本多　義二

435 激流の越えたる橋の欄干に倒木食い込む様（さま）に留まる
秋田県秋田市　蓬田　真弓

436 あの橋を越えれば山の学び舎の跡地に残る栃の木の見ゆ
秋田県秋田市　蓬田　真弓

437 今生の姿を川面に見しという面影橋を今渡りたり
秋田県秋田市　蓬田　真弓

438 川蟹を捕りし昔を思いつつ橋下歩く巣を探しつつ
群馬県高崎市　塚越　小枝

439 早緑のなかに小さな手を離せば子は振り返らず吊り橋をゆく
京都府京都市　小池　ひろみ

440 雨上り　琵琶湖に掛りし　虹の橋　サンダーバード号にさよなら告げる
大阪府柏原市　田倉　あけみ

441 **陸橋に立てば二上（にじょう）の山見えて河内六寺は幻の中**
大阪府柏原市　田倉　あけみ

442 トリックを解く手がかりは橋にあるそこから見える容疑者の影
秋田県秋田市　佐藤　宏基

443 一万歩歩き歩きて眼銀橋靴底剥がる川風涼し
宮崎県宮崎市　青山　昌子

444 吊り橋を恐々渡るご褒美は綾の錦の独り占めだよ
宮崎県宮崎市　青山　昌子

445 ぐしょ濡れで橋橋を渡る時小猫の声に駆け寄り抱く
宮崎県宮崎市　青山　昌子

446 **鉄橋を渡る貨車の音数(ね)えつつ数ⅡBの図形を睨む**
大阪府河内長野市　木村　嘉子

447 秋雨のやみて清しき山の道見上ぐる橋の上うすき虹たつ
福島県いわき市　鈴木　椿

448 **夕暮れの電車わずかに重くなりここぞと踏ん張る橋桁の音**
宮城県山元町　太田　君江

449 いくつもの橋をくぐれば少しだけ昔のふたりに戻る気がする
埼玉県三郷市　湯島　京子

450 **朝の陽が橋に降るとき老犬と氷像のような会釈を交わす**
東京都武蔵野市　北谷　雪

451 晩釣橋渡りきればリハビリを外歩行を許すと医師言う
群馬県前橋市　山口　タツ子

452 隠れ住む高野長英夜釣りせし晩釣橋の由来ときぬ
群馬県前橋市　山口　タツ子

453 利根川につり橋架けし兵次郎爺藤原ダムに共に沈みぬ
群馬県前橋市　山口　タツ子

454 古里の小川に古りし丸木橋封印代わりか葛の絡まる
埼玉県本庄市　白藤　巳玲

一般の部【自由題】作品集

２２７人　４８６首
投稿順に掲載
太字作品は入賞・入選

1 松茂る岩場の谷の舟下り船頭さんの伊那節聞いて
長野県箕輪町　市川　光男

2 寝たきりになりたる友に電話する妻よあなたは我が介助す
宮崎県日向市　黒木　直行

3 一目惚れ薫風籠る呼出音彷彿に萌ゆ一会を逸る
熊本県熊本市　田上　智佳士

4 歌友の悲しい別れ忘れずに命の限り生きてゆく
千葉県千葉市　うめさわ　かよこ

5 ウクライナの民でしあれば銃をとりわれは戦う、たぶんではあるが
東京都世田谷区　野上　卓

6 丸の内ＯＬたちも祭髪首塚前に神輿舁きたる
東京都世田谷区　野上　卓

7 雪ふかき峡を生き来て八十(はちじふ)歳余逝く日は春とこころに決める
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

8 青き鳥　山のかなたの幸追はず峡に存ふいのちの穏し
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

9 三着の上にはなれぬこの足でひたすら駆けていま峡にあり
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

10 熟蚕を拾へぬゆゑに嫁げぬと泣きし日のある君の訃を聞く
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

11 昨日けふ「智恵子」に見せたき峡の空ほそき流れの利根に映りぬ
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

12 夫逝きて授かった孫(こ)のいつのまにか体操ブリッジできたと写メール
群馬県みなかみ町　笛木　洋子

13 **死にたいと生きてみたいの行間を読める人から消えていく街**
群馬県みなかみ町　どーメキ

14 君がいた三年間のモヤモヤに「初恋」と附しシュレッダー行き
群馬県みなかみ町　どーメキ

15 チャーシューを残し替え玉一口目此処こそ死所と決めたのか、蠅
群馬県みなかみ町　どーメキ

16 「そらにいるママにあわせておほしさま」一番低い短冊の裏
群馬県みなかみ町　どーメキ

17 死にたいと言ったら無言でそばにいて独りじゃ明日に挑めないから
群馬県みなかみ町　どーメキ

18 穂芒は風のまにまに乱れつつ草の香著(しる)く秋は闌けゆく
岐阜県中津川市　古井　冨貴子

19 離婚より三十年を己が世世今さらながら会ふ由もがな
愛知県知立市　星原　風堂

20 四時間の透析今日は短かくて大谷兜アメリカ転戦
北海道札幌市　鎌田　誠

21 犬型のロボットが突如吠え立てる「充電充電」と会話の途中
埼玉県所沢市　若山　巌

22 これの世に登場したる「心玲」ちゃん第一声は高らかなるオギャー
宮崎県宮崎市　中村　由美

23 調べよき風鈴の音を傍らに詩歌を詠むのは至福の時なり
群馬県高崎市　秋山　充利

24 下の橋友情歌碑に桜の葉はらはら舞いて子どもら遊ぶ
岩手県盛岡市　森　義真

25 鬼ユリの庭に外敵守るがと角立て歯を出し色鮮やかに
群馬県高崎市　湯浅　慧子

26 声高く清流という音楽に合わせて歌うカジカガエルよ
群馬県みなかみ町　田中　春枝

27 側溝の中で静かに光ってるたばこと雑草朝のステージ
群馬県沼田市　岡本　有未

28 したたかに勝つと信じて決勝でサムライジャパン感情溢れ
群馬県みなかみ町　篠原　忠

29 洗濯機どちらを買うかジャンケンだ勝負に勝ってドラム式買う
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

30 今年こそ「海に行く」と言ってみる まずは脂肪を無くす準備か
群馬県みなかみ町　篠原　香代

31 くるくると焦る気持ちが空回りとにかく今は準備と我慢
群馬県昭和村　加藤　南風

32 山育ち新鮮野菜に米も良しでも外食は海鮮が好き
群馬県みなかみ町　小林　はつ江

33 子持山沈む夕日を後にして飛行機雲は高く伸びゆく
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

34 清らかな水面に映る山並みの木々の青さに初夏の訪れ
群馬県みなかみ町　倉田　富夫

35 上がっては浸かる湯の中澱落とし解け私は干し椎茸になる
群馬県片品村　金子　美由紀

36 お池のねアメンボたちがスイスイと波紋をつくり楽しい水辺
群馬県みなかみ町　深代　里子

37 真夜中のオニオンスライス二人前涙のあとに上書きをする
群馬県みなかみ町　大山　智也

38 沙羅双樹白い花が咲くらしいブッダと清盛　背中合わせに
群馬県みなかみ町　小室　史

39 鹿の子が野山を駆けるその足で渇きのために沢まで降りた
群馬県みなかみ町　宮﨑　りえ子

40 事務室の窓より眺むる青き空早く流るる白き雲あり
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

41 旅をするアサギマダラが庭先の白き小花に羽を休める
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

42 盆来ては遺影の父をみつめつついつしか似てき弟の横顔
群馬県みなかみ町　原澤　君子

43 あちこちの監視カメラにキャッチされ団地を抜けた酒屋に着きぬ
徳島県阿南市　小畑　定弘

44 高々と萱草茂る一軒家生涯娶らぬ友ひとり棲む
徳島県阿南市　小畑　定弘

45 炎天の球児は声を出して散り応援席のホルン輝く
群馬県前橋市　中澤　ひろみ

46 キャンプ場西瓜切るよの掛け声に子ら走り来る木から川から
群馬県前橋市　中澤　ひろみ

47 幾年や過ぎ去り行くも想い人如何に在すや卒寿の坂も
静岡県伊豆市　登木口　孝雄

48 牧水の顕彰の旅友がらと往時を偲ぶ暮坂峠
静岡県伊豆市　登木口　孝雄

49 新緑やひ孫の笑顔癒されし八十路の坂も元気もらいし
静岡県伊豆市　登木口　孝雄

50 少子化も産めよ増やせは今は死語少数精鋭花世価値咲け
大阪府大阪市　後藤　憲之

51 介護苦も無けりや虚だが日々必死往きて母無き今が悲し苦
大阪府大阪市　後藤　憲之

52 四つ辻は蝉の鳴き声に満ち満ちて惑う右と左の道を
山口県光市　瀬戸内　光

53 タイトルの「あらもう百歳」の明るさよわれも気負はず八十歳むかへむ
群馬県前橋市　松下　昭代

54 師の歌を手本と学びわが畑の土に施肥して歌太らせむ
群馬県前橋市　松下　昭代

55 御不浄に神様あれば礼として富士山型に紙折りてをり
岐阜県中津川市　吉田　順代

56 耳鳴りか蝉の声かと訊(たず)ぬれば鳴いていません妻は難聴
群馬県沼田市　嶸　風

57 我が生まれ亡母着せくれし赤き産衣今も残れり色褪せぬまま
東京都東村山市　浦壁　あけみ

58 被爆地や梯梧(でいご)の花の重く咲く焼き残されしロザリオ数多
千葉県船橋市　川﨑　富子

59 長崎の土産袋の「おたくさ」よ歴史に残る婦人の在りぬ
千葉県船橋市　川﨑　富子

60 繰り返し話整え会得して絡まる糸を一つずつ解く
和歌山県田辺市　谷中　明子

61 不安げに自転車を押す少年がつと近づきて差し出す賀状
宮城県仙台市　角田　正雄

62 お呪い「俺を越えたよ今の君」「先生狡い嘘を吐いてる」
群馬県伊勢崎市　齋藤　守男

63 同じ空誕生祝い笑い声いつか逢いたし夢の中
群馬県みなかみ町　島崎　牧蕉

64 リサイクルに出され買われていくという市松人形笑みて寂しも
岡山県新見市　浅井　和枝

65 タイマーは四時間なりし扇風機猛暑の設定はてさて手動
愛知県蒲郡市　牧原　正枝

66 庭隅に今日も鳴きゐるきりぎりす子供の頃の網で追ひし日日
福井県小浜市　大江　青流

67 岩をかみ砕けちりゆくしぶきさへ光りつつゆくささやきながら
群馬県高崎市　神澤　静枝

68 昭和の代(よ)半世紀を生き染み付きし良きも悪しきも今生き難(にく)し
埼玉県さいたま市　前田　明利

69 前を向き歩みゆかぬと転びます振り向くばかり過ぎし日恋し
埼玉県さいたま市　前田　明利

70 新盆の盆棚の前しづしづと掌を合はせたり孫大人びて
埼玉県さいたま市　前田　明利

71 浅間より雲の沸き立つジオパーク溶岩奇岩そびえる避暑地
群馬県千代田町　大谷　徳湖

72 三対の楕円の影持つみずすまし　水表面は膜ある如し
群馬県川場村　桑原　謙一

73 ラーメンの無料ライスは断りて妻とのランチに餃子を添える
群馬県川場村　桑原　謙一

74 金欲しさに安易に手を出す闇バイト心貧しき若者よああ
群馬県川場村　桑原　謙一

75 真っ白なペンチのごときつばさ橋持ち手の間(あい)を二回くぐりつ
東京都杉並区　井芹　純子

76 縁切りを決めて出てきた大阪に憎みきれない男が暮らす
青森県青森市　髙橋　圭子

77 研修で長期出張の父に電話し『早く帰ってね』と幼き我かな
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

78 友と会い従姉へ泊まる約束の　楽しき思い出、黒電話なり
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

79 友達と公衆電話し　ハンサム先輩へ、バレンタインのレコード渡し日
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

80 薬大の女子寮電話の交換は　当番制で乙女等の声
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

81 薬大の女子寮電話の廊下ブース　何でも母へ聞いてもらいし
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

82 秋の夜　ホイットニー・ヒューストンをＢＧＭに電話受けたり
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

83 留守電のＢＧＭにボレロ流れし　慶応医師は知的セクシー
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

84 ＴＥＬ聞かれ断りし日の若き医師は　教授となりてテレビに出ており
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

85 東京の女友達に毎夜ＴＥＬし　いつも楽しく聞いてくれたり
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

86 千葉県の女友達に長電話　食事しながら一晩中
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

87 仕事をし電話かけたる若き我は　洗練されて美声でしたのに
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

88 電話受けし我を母と、まちがえし　甘え気味声の父は照れいる
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

89 若き日は電話好きの我　年重ね電話よりも創作活動
群馬県伊勢崎市　新井　恵美子

90 **晩秋の景より失せし藁塚は古ぼけ黴てわが絵に立つも**
山口県宇部市　藤井　重行

91 **ぽつかりと虚空にひとつこの世から浮いてゐる雲私のやうに**
青森県八戸市　木立　徹

92 世に生きる明日のことさへわからずにのほほんと暮らす笑ひ転げて
青森県八戸市　木立　徹

93 予定表埋まらぬままに季の移り令和五年の夏を逝かしむ
静岡県藤枝市　杉本　弘子

94 吾を背に配給券手に雑炊を食べに並びし戦時中の母
群馬県高崎市　木暮　ヒサ

95 茜さす流るる雲の海原を母乗る舟の行きし彼岸へ
千葉県柏市　中村　弘

96 桜咲（はな）きてあが生日（せいじつ）に色をそふ米寿をピンクに染めあぐ朝（あした）
群馬県伊勢崎市　野口　弘

97 夕闇に飲まれし様に日の暮れて影絵の浅間今し寝みぬ
群馬県伊勢崎市　野口　弘

98 眠むられぬ夜のつづきぬ今晩も羊（ひつじ）追ひ立て数へしゐるに
群馬県伊勢崎市　野口　弘

99 珊瑚婚過ぎて初めて二人居に　隣の部屋で同じ番組
群馬県藤岡市　神田　恵美子

100 仲良しという程でなき近隣と連れ立ちて行く接種六回目
大阪府羽曳野市　赤澤　皆春

101 緩やかなポニーテールの襟足に吐息のようなエアコンの風
群馬県みなかみ町　田中　春枝

102 **米粒が掃除機の中へ吸われゆくあの感触を分かち合う夜**
群馬県沼田市　岡本　有未

103 汚れたら置いて洗ってきれいにし拭く手間要らず家電製品
群馬県みなかみ町　篠原　忠

104 以前から欲しくて買ったアイロンの箱を開けずに早三か月
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

105 プロペラに「あーー」と声を震わせた　こんなに夏は暑くなかった
群馬県みなかみ町　篠原　香代

106 晴れ晴れし明日の目覚めに橋渡せ憂いを祓う夕暮れの酒
群馬県昭和村　加藤　南風

107 扇風機組み立て始動　仏壇の花笠菊もニッコリしてる
群馬県みなかみ町　小林　はつ江

108 ペラペラとテフロン加工剥げてゆく米研ぐ度に釜底さする
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

109 モーターを回す力は電気を減らす止める力は電気が増える
群馬県みなかみ町　倉田　富夫

110 あの時に凍った心チンをして溶かせれば今変わっていたの
群馬県片品村　金子　美由紀

111 家電なれついつい平気あたりまえ自分のお手共に大切
群馬県みなかみ町　深代　里子

112 家庭用掃除機ロボがこっち来て「いってらっしゃい」言ってる気がする
群馬県みなかみ町　大山　智也

113 お湯沸いたドア開け放しピーピーと暮らしの相棒いつもありがと
群馬県みなかみ町　小室　史

114 洗濯機洗う時間は約2時間壊れていると知らずに5年
群馬県みなかみ町　宮崎　りえ子

115 父母の眠りし墓に供ふるは母の好みしミソハギの花
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

116 朝露に濡るる草花庭先の秋海堂の花びら光る
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

117 母逝きて心の洞は開いたまま紫陽花の白たっぷり活けたし
茨城県鹿嶋市　児矢野　雅恵

118 にはたづみ桔梗の紫うつりこみかすかに揺らす夏の夕風
茨城県鹿嶋市　児矢野　雅恵

119 霜柱踏めば顕ちくる幼な日の焚火と母の味噌握りの飯
茨城県鹿嶋市　児矢野　雅恵

120 **地下深く妣の妣へと還りゆく鍾乳石を落ちる水音**
群馬県高崎市　佐藤　真理子

121 羊羹を七つに切り分く母の手もと児らがじっと見つめた戦後
群馬県高崎市　猪俣　軍司

122 スーパーのバックヤードに鳴く蟋蟀「食材コオロギハンバーグ入荷」
群馬県高崎市　猪俣　軍司

123 御破算も無かつたこともできないが竜頭を巻いて新たを刻む
宮崎県宮崎市　荒尾　洋一

124 少年は冒険の夢を紡ぎて可能性の船大海へ漕ぐ
群馬県前橋市　小畑　吉克

125 抱きたる源流の水昇華して橅の大樹は豊かに朽ちぬ
群馬県沼田市　蝋山　恵子

126 農の間に雑草の上に寝転べば天与の褒美か涼風過ぎ行く
岐阜県飛騨市　野村　訓啓

127 新涼の弓道場に鬼やんま狙ひ定めし的に留まる
群馬県伊勢崎市　木村　あい子

128 アサギマダラ飛び来と聞きぬアゲラタム乱れ飛ぶのは立羽蝶なり
群馬県みなかみ町　奥村　清美

129 ひんやりと朝露の降り光満つ秋晴れに映ゆ一ノ倉沢
群馬県みなかみ町　奥村　清美

130 彼岸花咲き初むるのか畑の隅まづはこの草刈らねばならぬ
群馬県みなかみ町　奥村　清美

131 またひとり「お花の会」に参加せししばらく止まぬ着信に笑む
群馬県みなかみ町　奥村　清美

132 **今と昔母の記憶は入り乱れ今日のあなたは何歳ですか**
群馬県みなかみ町　奥村　清美

133 喚き泣く障害の子撲つ母の雑踏散りて夕闇せまる
群馬県みなかみ町　野澤　武

134 飲み水と洗面所まで行きかけてつと逆らうペットボトルは
群馬県みなかみ町　野澤　武

135 盗人と指から落ちる白砂と時移れども歌詠む人は
群馬県みなかみ町　野澤　武

136 国境でとぎ旺とぎれに溜息がお疲れぎみの今日の火の山
群馬県みなかみ町　野澤　武

137 割り髙よ日　祭日お休みよチラシも無いよでも読みたいの
群馬県みなかみ町　野澤　武

138 **目が合って外した視線は空というプールで息継ぎ忘れて溺れる**
岡山県倉敷市　堀　将大

139 帽子風のヘルメット被り交番を臆することなく自転車に過ぐ
愛知県豊橋市　篠田　武子

140 ダッシュしてラガーの筋肉トライミス崩れ散らばってしまう私
愛知県豊橋市　篠田　武子

141 汁だくにセプテンバーレイン口遊む地・水・火・風体温越える
愛知県豊橋市　篠田　武子

142 あの花火大会今夜だったのか仕事帰りに背後から音
鹿児島県鹿児島市　佐藤　橙

143 黄金田のままの荒草つきぬけてヒガンバナの赤き群落
群馬県高山村　割田　良次

144 ほかほかの酒饅頭五個持ちて変りないかと近所のおばさん
群馬県高山村　割田　良次

145 心根を揺らす短歌にならねども余生短かな老のたのしみ
群馬県高山村　割田　良次

146 先逝きし妻の遺した日記帳我が言行を連記してをり
群馬県高山村　割田　良次

147 悲しさが慕情に変る三回忌遺影の妻と無言の語り
群馬県高山村　割田　良次

148 連休も来なかつたねえと呟けり待つてゐたのかをさな女のこゑ
群馬県高崎市　井田　善啓

149 前を空け乙女を入れやり秋陽差すひかりの街を老い妻と過ぐ
群馬県高崎市　井田　善啓

150 軽トラに名前を付けて呼んでいる銀虎と行くアメニティパーク
群馬県みなかみ町　田中　春枝

151 ちびっ子と先頭車窓立ち見する空中をゆく多摩モノレール
群馬県沼田市　岡本　有未

152 加速してバシャバシャ飛んだ大海で離さず耐えて伝い生還
群馬県みなかみ町　篠原　忠

153 自転車でワンちゃん五匹散歩さすつわものを見た敷島の朝
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

154 「大宮駅東口に」十一時コロナ禍抜けて友との再会
群馬県みなかみ町　篠原　香代

155 乗るたびにワクワクしちゃうダッジバンショーウィンドウに映ると最高
群馬県昭和村　加藤　南風

156 颯爽とアンパンマンカーに跨がり「行ってきます」と二才の孫が
群馬県みなかみ町　小林　はつ江

157 もう昔初めて乗った汽車の窓父は指さす鐘の鳴る丘
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

158 ポルトガル国内電車の周遊旅夢の中でも話しかけてる
群馬県みなかみ町　倉田　富夫

159 今ここで左折高速入ったらどこまで行けるか行かないけどね
群馬県片品村　金子　美由紀

160 田舎道ハイヤーが来た花嫁が中から笑顔喜び満ちて
群馬県みなかみ町　深代　里子

161 初めての免許で乗ったスクーター隣町まで三十二分
群馬県みなかみ町　大山　智也

162 我覆う鈍色の空　気怠くて　重い瞼（まぶた）とメリーゴーランド
群馬県みなかみ町　小室　史

163 昔なら歩くしかない遠い道！今は車に飛行機に船
群馬県みなかみ町　宮﨑　りえ子

164 秋分の畦道に咲く路地菊の幽けき白花風に揺れをり
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

165 飛鳥路を遠足の児ら巡り来てタブレットにて仏を撮りぬ
奈良県奈良市　堀ノ内　和夫

166 ははそはの胸にい抱れ思ひきり泣きたきものを母よ母よと
群馬県東吾妻町　青木　ソメ

167 ふたたびを帰ることなき故里の庭に咲きゐむ冬のタンポポ
群馬県東吾妻町　青木　ソメ

168 手にかくし日記を書きてゐし母よありありとして今も目にあり
群馬県東吾妻町　青木　ソメ

169 車椅子に体預（あず）けて歯をみがくこの一部屋がわが家となりぬ
群馬県東吾妻町　青木　ソメ

170 満月をしみじみ見上ぐる真夜中の月に山ありすぐる日巡る
群馬県沼田市　田村　鶴江

171 ひたひたと階下に波寄す「伊根」の宿水上タクシー呼びて離るる
群馬県沼田市　田村　鶴江

172 赤とんぼ八ッ場のダムを撮る友の手首をかじる目玉をまわし
群馬県沼田市　田村　鶴江

173 電線の鳩の五十余列をなし辺りの稔り田吟味するらし
群馬県沼田市　田村　鶴江

174 花の散り今なほ黄色の女郎花虫等さりても変らず揺るる
群馬県沼田市　田村　鶴江

175 その昔死人花（しびとばな）と嫌われし彼岸花今観光の花に
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

176 通るたび気にかけていた休耕田草刈られあり何故かほつとす
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

177 八月も終りに近く新聞におせち料理の広告の載る
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

178 萩の花えのころ草の穂秋を告ぐ季節の移ろいはやきにとまどう
群馬県みなかみ町　髙橋　吟子

179 聞こえくる光と風と木々の葉のささやき合いの春の夕暮れ
宮崎県宮崎市　熱田　民恵

180 待つ宵はあはれ無月の十六夜に立ち待ち居待ち臥し待ちて更け
茨城県つくば市　大和　乙女

181 海辺よりあがる花火を遠くみる空に瞬く星となる君と
茨城県鹿嶋市　大熊　佳世子

182 師の後につきて辿りし暮坂峠牧水の歌碑胸熱く読む
群馬県前橋市　鵜野　敏子

183 生きている不思議を感ず齢なり疫病で逝く友の多くて
群馬県高崎市　齋藤　宏子

184 **古希となり卒寿の父のつぶやきが分かり始める夕食の膳**
群馬県高崎市　齋藤　宏子

185 カーテンが僅か明るくなり始め母は音なく厨へ行きぬ
群馬県高崎市　齋藤　宏子

186 叱らるることは明らかずぶ濡れで水遊びする兄と弟
東京都町田市　谷川　治

187 新藁をのべし牛舎の朝まだき生れし命に朝日さしくる
東京都町田市　谷川　治

188 国宝の火焔型土器出土せしわがふるさとの魚沼の雪
東京都杉並区　庭野　治男

189 十六の十八・二十の年齢の「結婚」・「選挙」・「飲酒」成人とは
東京都足立区　佐藤　春夫

190 蛍入る病院の広きエレベーター危篤の人に早く一目と
群馬県安中市　福田　誠

191 諏訪峡で若き晶子が詠いたる利根激流は若葉に猛る
群馬県みなかみ町　石坂　作次

192 痛ましき又遭難の報を聞く谷川岳に今日もヘリ飛ぶ
群馬県みなかみ町　石坂　作次

193 今日も又熊出没の報のあり人の世変われど山河変わらじ
群馬県みなかみ町　石坂　作次

194 若き日に利根川源流を極めたり氷河の如き雪渓忘れじ
群馬県みなかみ町　石坂　作次

195 飼われてるつもりはないけどここが好き猫は気ままあなたは律儀
群馬県みなかみ町　杉山　久美子

196 前足で芋を抱へしその日よりサルは罪持つヒトとなりゆく
群馬県みなかみ町　杉山　久美子

197 幼き日摘みし野いちご橙色甘酸っぱき味いまも記憶に
新潟県新発田市　三浦　ユリコ

198 パパも子も新米同志坂道でもみじのような手のひら揺れる
群馬県沼田市　桑原　環世

199 三畳の夏夜の指に貼り付いたビキニ破けるカラーグラビア
茨城県東海村　風森　漣翠

200 短歌会世代の知れる一首とて個性豊かな詠みの楽しき
群馬県みなかみ町　番場　正夫

201 歌碑祭にかける献酒の香に酔いて先ずは飲みたり此の一献を
群馬県みなかみ町　番場　正夫

202 献酒する柄杓を持ちて先ず飲めと坪谷の老いが我に進めり
群馬県みなかみ町　番場　正夫

203 悪戯に長生きするも良し悪し健康寿命肝に銘じて
群馬県みなかみ町　番場　正夫

204 枝よりのクマ出没でお迎えを保護者に伝ゆメール届きぬ
群馬県みなかみ町　番場　正夫

205 見上げれば空にひろがる雲の地図　旅のおわりに野湯のやわらか
東京都港区　夏野　ひぐらし

206 母逝きてひととせめぐり父はただ峠の道で目を閉じている
東京都港区　夏野　ひぐらし

207 遺品からはじめてふれる父母の恋　若き父から母への文は
東京都港区　夏野　ひぐらし

208 農耕に吝かでない傘寿にて昇る朝日に血汐がさわぐ
埼玉県深谷市　強瀬　忠昭

209 八十路だがなお来む年の種籾の用意を真骨頂と言うべき
埼玉県深谷市　強瀬　忠昭

210 朝なには底まで澄める池の水ピシリパシリと小魚の群れ
京都府舞鶴市　新谷　洋子

211 しきたへの古りたる家にのほほんと小亀が首を伸ばしてをりぬ
京都府舞鶴市　新谷　洋子

212 **満月のごときケーキを分けながら素数の原理を口にする汝**
京都府舞鶴市　新谷　洋子

213 うらさむし友を訪ねて束の間を言葉少なに別れ来にけり
京都府舞鶴市　新谷　洋子

214 山里の細く流るる真清水に虫の食みたる菜花を洗ふ
京都府舞鶴市　新谷　洋子

215 **一度だけ訪れた町みなかみは坪谷にも似て豊かな自然**
宮崎県日向市　黒木　金喜

216 夕焼けに涙ぐみしも遠き日のわが初恋を嗤ふかカラス
群馬県みなかみ町　眞庭　義夫

217 轟ける雷（いかづち）たちまち過ぎしあと夕べ気（け）寒くまた驟雨来る
神奈川県厚木市　井上　勝朗

218 川岸をひとつ蛍が飛び立つを目敏く幼が網かざし追ふ
神奈川県厚木市　井上　勝朗

219 はひはひし逃げ回る児（こ）べそかく児（こ）なんとかわゆし平和よ続け
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

220 羨望をいかにとどめん育メンの一人まざりて乳児健診
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

221 パパも子も慣るる清しさ健診に脱ぐも着せるもただ見守りぬ
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

222 隠してた炎のありか隠すように木陰に燃ゆる曼珠沙華の群れ
神奈川県相模原市　岩瀬　夏子

223 葉を知らぬ華は寂しい夜に立ち永遠に探して花火と咲かむ
神奈川県相模原市　岩瀬　夏子

224 ひとむらの炎が揺れて失き日々を想いてひとりたつ華があり
神奈川県相模原市　岩瀬　夏子

225 秋雨に濡れる桜葉こうべ垂れ睫毛にけぶる後悔のよう
神奈川県相模原市　岩瀬　夏子

226 **牛舎ごと三十頭の燃えゆきしその声父母やいかに聞きけむ**
群馬県千代田町　大谷　光男

227 幼き日吾娘が植えたる赤松の枝振り増して庭に育てり
群馬県みなかみ町　松井　とし子

228 晩秋の取り残したる柿の実につぐみは競いて日暮をおしむか
群馬県みなかみ町　松井　とし子

229 穂すすきを手（た）折りゆるゆる散歩する余生にうまし朝の大気は
群馬県沼田市　平井　敏江

230 去年より暑いと思ふ彼岸来てはや道端に秋草実る
群馬県沼田市　平井　敏江

231 子が継ぬ農業なれど卒寿でも田畑耕すこの苦しみは誰にも言へづ
群馬県沼田市　今井　栄一

232 飼育小屋に張り紙のある夏休み「やぎさんはながのにかえりました」
東京都清瀬市　野原　てい子

233 第一子の姉は振袖、次女われは洋服なりき七つの写真
東京都清瀬市　野原　てい子

234 現世よりもあそこがいいと指をさす終（つい）の日祖母は来世を見てか
香川県丸亀市　寒川　靖子

235 欄干に凭れて涼む若き等の浴衣の裾にかろき川風
群馬県沼田市　内山　高重

236 ほろ酔ひて浴衣の裾を捲り上げおいで祭りの列に飛び込む
群馬県沼田市　内山　高重

237 **姉案じ一字一字を拾うよな母の損じた下書き見入る**
群馬県沼田市　内山　高重

238 桜散り利根の流れを80里太平洋を染めてピンクに
群馬県みなかみ町　松浦　覺

239 夕暮れて外野を越えたひと振りに途方に暮れる補欠の少年
群馬県みなかみ町　松浦　覺

240 初飛行高所不得手の鷲の仔の南無三の背に青い風船
群馬県みなかみ町　松浦　覺

241 南海の孤島（ことう）に住まふ椰子蟹よズルくはないか我の闊達
群馬県みなかみ町　松浦　覺

242 枝先の揺らぎもみせず虫の来てしばしの思案や蜻蛉（とんぼ）の日記（にき）なる
群馬県みなかみ町　松浦　覺

243 牧水の歌碑祭はあす、はぎの花紅と白とに咲きゐるや、秋晴れであれ
岡山県新見市　井原　志津枝

244 血縁と言う繋がりに君想い我が背負いし重き十字架
群馬県高崎市　木内　寿子

245 紅をひく母浮かび来ず眼裏に曲りし指と静かな眼差し
群馬県みなかみ町　中島　早苗

246 故郷はいつも美しと吾子に書く久しく会はず心にかかりて
群馬県みなかみ町　中島　早苗

247 名所でも名園でなくも我目には心も澄める名月のあり
群馬県みなかみ町　中島　早苗

248 ときぐすり失くした心の処方箋思ひ出を繰り幾日幾月
群馬県みなかみ町　中島　早苗

249 疎みしにあらねどセイタカアハダチサウ香りしるしといつ思ひけむ
兵庫県宝塚市　小竹　哲

250 炊飯器の蒸気が上がりキッチンの冷気の少し和らぎ始む
岐阜県飛騨市　江尻　恵子

251 寄する波はるかな昔を語りたる足に囁き手に物語
三重県亀山市　岩谷　隆司

252 ゆっくりと砂を掴みてさらさらと波に零して恋と別れる
三重県亀山市　岩谷　隆司

253 **行く人も帰る人にも手を上げて今日はそれだけでいい人に会拶**
三重県亀山市　岩谷　隆司

254 寒き夜の風呂は御馳走と言ひながら背を流しくれし祖母の笑み顕つ
埼玉県朝霞市　金澤　隆男

255 順番が回ってくればクラス中静まりかえりどもる我待つ
山口県光市　松本　進

256 田の神は山にかえりて藁散らす刈り田は雪に春まで眠る
群馬県みなかみ町　林　いくじ

257 木漏れ日の緑が匂ふ谷川路夏鶯（うぐいす）の澄みし声聞く
群馬県みなかみ町　林　いくじ

258 枯薄（かれすすき）　吹き来る風は頬を刺す雪を間近に妻と薪積む
群馬県みなかみ町　林　いくじ

259 遠き春母の小さな鏡台にポツンとありしコールドクリーム
愛媛県松山市　宇和上　正

260 口論の果てに見せにし同僚の寂しき眼差し今も忘れず
愛媛県松山市　宇和上　正

261 「くやしい」とシニア女性の呟けりセルフレジにてサポート受けて
愛媛県新居浜市　大賀　康男

262 金平糖ケバブ甘栗わたあめ棒回転するものみんな美味さう
群馬県大泉町　太刀花　秒

263 **星と星むすんでできるお話を地球に読んであげている冬**
群馬県大泉町　太刀花　秒

264 歩みゆく卒園児らよ春の散り無邪気なさやうならは聞こゆる
群馬県大泉町　太刀花　秒

265 繋がらばまじりあふこと避けられじスマホの画面むき合はすれど
群馬県大泉町　太刀花　秒

266 ＬＩＮＥないからメールしてと言ふ友はあのころのままに輝いている
群馬県大泉町　太刀花　秒

267 ほろびゆくいくさの記憶なが雨にうたるる健康美像の額
群馬県大泉町　太刀花　秒

268 三色のコスモス畑一面に吹き上ぐ風よ母を呼びたし
群馬県藤岡市　清水　静子

269 亀虫をそつとティッシュで包みこみ庭へ放つ子亡き夫（つま）に似し
群馬県藤岡市　堀口　りつ子

270 ５０７ページの小説読破後はチョコむさぼるやう歌集読むなり
群馬県藤岡市　堀口　りつ子

271 これ友よ何やってんだ遺作には季語の無き句が五つもあるぞ
岐阜県郡上市　海神　瑠珂

272 平穏な暮らしを捨てて家出した愛犬ゴンゾウ何処をさすらふ
群馬県みどり市　志田　貴志生

273 教室にサイン・コサイン・タンジェント悪魔の呪文が眠りに誘ふ
群馬県みどり市　志田　貴志生

274 母居ぬ日胡瓜を刻む孫娘刻に揃はむ俎の音
群馬県高崎市　湯浅　茂子

275 小豆畑をやさしく舞ひゐる紋白蝶産みたる卵はやがて青虫
群馬県高崎市　湯浅　茂子

276 大藁屋今年も柿のたわわなり揚花火のごと夕日浴びたり
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

277 米づくり八十八手の労ありと主（ぬし）は説くなり田んぼの子等に
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

278 星月夜切絵のごとし峡三戸闇の静寂（しじま）にやがて包まる
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

279 逝く人に白菊棒ぐ佛前に声細くして別れ惜しめり
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

280 まづ落葉掻くことなりと菊づくり子を育つごと翁精出す
群馬県みなかみ町　遠藤　長代

281 つらつらと歌碑を流るる祝ひ酒　除幕式にて牧水称ふ
愛知県岡崎市　西村　愛美

282 中之条駅に数多の吊し雛上洲の風にくるくる踊る
愛知県岡崎市　西村　愛美

283 **立葵今年は誰も帰らない風の高さを飛び交ふあきつ**
大分県国東市　原　比呂子

284 朝闇を灘に船出し鯛漁（いさ）る孫釣り糸を手に居眠りぬ
大阪府岸和田市　向井　靖雄

285 君の眼の霞は深くなりゆけど水晶玉の心変はらず
千葉県柏市　佐藤　まれよ

286 猛暑あとの雨乞ひにも似て降りつづく乾きし峡をうるほすやうに
群馬県みなかみ町　荒木　洋子

287 あつさりと暦の上を通り過ぐわが誕生日今日を終りぬ
群馬県みなかみ町　荒木　洋子

288 離れ住む孫の時間は孫のもの寝たあとに来る誕祝メール
群馬県みなかみ町　荒木　洋子

289 階段でふと見上げると満月で今日の私はどうだったかな
群馬県安中市　半田　あけみ

290 育ちたる家建て替ふも鬼瓦庭に下ろされにらみを効かす
群馬県前橋市　松下　昭代

291 そば店のはし袋の絵菊となり暖簾の風も秋を運び来
群馬県前橋市　松下　昭代

292 **線香花火の火の玉の膨らみて落ちれば心ふぬけになりぬ**
愛知県岡崎市　中村　佐世子

293 身につかぬ新語や造語次つぎとサバゲー、バサキ、脳ぶっ千切れぬ
愛知県岡崎市　中村　佐世子

294 不老不死の桃など食めばこれの世の迷惑者になるほかなからん
愛知県岡崎市　中村　佐世子

295 虫かごの邯鄲（カンタン）の身に透き通る朝光（あさかげ）夏の終りを告げり
愛知県岡崎市　中村　佐世子

296 晩夏なる休耕田の水鏡積乱雲の湧くを楽しむ
愛知県岡崎市　中村　佐世子

297 紙の舟シートの海をこぐゲームシルバーわれら汗を流しぬ
山形県鶴岡市　大沼　二三枝

298 故郷を忘れないでと栗送る墓じまひせし亡友（とも）の妹に
秋田県湯沢市　村田　磨理子

299 虫食いの葉っぱにできた点々は涙のあとの染みも似てる
群馬県みなかみ町　ベネット　昭子

300 **ご主人によろしくと恩師電話切る亡き夫（つま）今も生きててくれる**
群馬県みなかみ町　ベネット　昭子

301 人込みにわが名呼ばるるちやん付けで思はず過去を振り返りたり
茨城県笠間市　飯田　初江

302 下町の情緒ただよふ国技館すもふ甚句をしみじみと聞く
千葉県市川市　松田　恵子

303 葉を落とす力も無くて立ち尽くす庭の大樹に秋の陽ざしが
大阪府堺市　名川　由江

304 小舟漕ぐ春の蘇州の川面には水泡のごとし旧き家並み
大阪府堺市　名川　由江

305 **切られてるとは気が付かぬ銀杏の木は残った枝に若葉を付ける**
徳島県阿南市　坂東　典子

306 老夫婦よいしょよいしょと柿を取る大きな脚立うまく使って
岡山県瀬戸内市　小橋　辰矢

307 手花火の最後の火の落ち孤独なりしばしの闇に子等の居た庭
群馬県みなかみ町　増田　津恵

308 **錦秋の丸沼は今日も静かなりもう居ない君と食べた弁当**
群馬県みなかみ町　増田　津恵

309 穭田（ひつじだ）に鷺（さぎ）二三羽遊ばせる秋を迎える田園の景
群馬県みなかみ町　増田　津恵

310 夕涼の月見草咲く逢瀬の道別れし人よいまは何処に
群馬県みなかみ町　増田　津恵

311 スーパームーン友にも電話し出るを待つ虫しげく鳴き秋の舞台に
群馬県みなかみ町　増田　津恵

312 悪い事何もしてない僕達は戦禍のゴザに抗議の子等よ
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

313 人間に恋するだけが恋でない散るさざんかに寂寞の恋
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

314 現代の戦は兵を倒すより主要な施設破壊合戦
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

315 人間を畏れぬ熊と猪と猿も時折人襲う世に
群馬県みなかみ町　杉木　輝夫

316 **危ふくも好きに歩ける幸せを今に気付けり父さんごめん**
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

317 システムはシステムなりと喫茶店カードだけとふ膨らむ財布
群馬県みなかみ町　眞庭　ヨシ子

318 老いてなほ農に親しみ励めども運ぶ新米年々重く
群馬県みなかみ町　阿部　伊亨

319 農作業大かた終えて草津の湯紅葉も映えて心身癒やす
群馬県みなかみ町　阿部　伊亨

320 過ぎし夏ジイジと寝ると孫むすめショックのバアバ顔にありあり
群馬県中之条町　島村　暁星

321 ムーミンパパの屋根裏の書斎のラジオより流れるは確かマーラー五番
神奈川県愛川町　冨田　茂子

322 車内にて文庫本読むメガネ君アトムの如き寝癖を見せて
神奈川県愛川町　冨田　茂子

323 夜顔の蔓は夕べの風に揺れセレナーデ奏ずるタクトの如し
神奈川県愛川町　冨田　茂子

324 難し世を生き抜くためにポケットへ心を開く蛇口を忍ばせ
東京都中央区　佐藤　直大

325 掛け流すほどの勇気を持たずして加水加温循環する吾
東京都中央区　佐藤　直大

326 杉林の木洩れ日の落つ墓参道かなかなのこゑは足をせかせり
大阪府豊能町　熊ノ郷　紀子

327 夕暮れの四辻にかがむ小さき猫去りゆく吾をぢつと見てをり
大阪府豊能町　熊ノ郷　紀子

328 夫は酒われは牧水飛騨古川（ふるかは）に酒と歌との出逢ひ求めて
埼玉県白岡市　中村　和江

329 ミース・ファン・デル・ローエ型ビルディング・タイプのごとくジン透きとほり
千葉県柏市　佐藤　和裕

330 クラインの壺のごときの絵を描きて息子は云ひし「手賀沼と波」
千葉県柏市　佐藤　和裕

331 まちなかの落書きイベント開く日も尻ポケットに「牧水の恋」
千葉県柏市　佐藤　和裕

332 クローゼット開けて何かを呉れんとす施設の父よ「なんにもいらんよ」
岐阜県飛騨市　横山　美保子

333 **始祖鳥の翔んでた空の色で塗る一年生の運動会の絵**
群馬県高崎市　大澤　澄代

334 机上なる孫の空想世界なり誘ひ込まれて迷ひてしまふ
香川県三豊市　上久保　忠彦

335 不機嫌てわけじゃなさそうなのに孫かえる言葉はぜんぶ一言
群馬県高崎市　大塚　とみこ

336 手は雑草をたゆまず引けど浮かびくる過去に遊べる初夏の畑
群馬県高崎市　大塚　とみこ

337 ユニホーム24番空に舞う令和5年の日本シリーズ
群馬県前橋市　長谷川　陽子

338 賞状を受けとる指の十枚のネイルアートに桜流るる
愛知県名古屋市　清水　良郎

339 一面に田植えの済みて緑なす白き軽トラ皐月に映ゆる
広島県広島市　小野　系子

340 雨のふる予感に飽和する朝にアイロンあてるあなたの白に
広島県広島市　小野　系子

341 クレジットの請求はがきの数枚が「危険な夏」のポストに熱し
広島県広島市　小野　系子

342 歌碑ははや匂えるほどに酒を飲みみなかみの空にうるむ牧水
群馬県渋川市　忽滑谷　三枝子

343 枯れ枝を上へ下へとうつりゆく小鳥は変える絵画を動画に
鳥取県琴浦町　中本　久美子

344 山里を牧水の如く歩きたしあの山この谷吾は八十路身
群馬県みなかみ町　林　好一

345 神無月まさかの夏日来たりけり今日も身支度半袖で居る
群馬県みなかみ町　林　好一

346 我が家の金の生る木は金生らず正月に向け花を付けたり
群馬県みなかみ町　林　好一

347 茸狩り父と登りし山奥で　なめこ、まいたけ、袋一杯
群馬県みなかみ町　林　好一

348 終活にあれこれ何か手を付けたその先進まず八十路に暮れる
群馬県みなかみ町　林　好一

349 二十一で逝きたる孫に広き世界見て欲しかつた見せて欲しかつた
山口県山陽小野田市　山縣　満里子

350 日当りの良き枝先より色付きて柚子は今年の豊作告げる
山口県山陽小野田市　山縣　満里子

351 ガチヤガチヤの竜馬像出でくるまでとコイン継ぎ足す子のまなこざし
群馬県みなかみ町　関　和子

352 筧中おたまじやくしの生れあり蛙になるか私の日記
群馬県みなかみ町　関　和子

353 精神の障碍者存在す彼等の輝く人生続く
大阪府大阪市　みなかみ之川

354 ホームレス無限に続けば生き地獄主な対策は仕事の確保
大阪府大阪市　みなかみ之川

355 子供達三輪車を使ふなり遊びと運動の必需品
大阪府大阪市　みなかみ之川

356 短歌とは古代時代から続いてる我自分で思い描き作る
大阪府大阪市　みなかみ之川

357 姫路城白鷺の如く綺麗なり市内大学生き残り願ふ
大阪府大阪市　みなかみ之川

358 炎天下避けて五時起き男爵の顔を掘り出す我と老母と
群馬県みなかみ町　細谷　龍夫

359 恋破れ水面に映る十三夜見上げる夜空満天の星
群馬県みなかみ町　細谷　龍夫

360 迎え盆線香六本並び立ち初対面の嫁の横顔
群馬県みなかみ町　細谷　龍夫

361 青い空緑の稲穂に挟まれし雲に漂う秋茜かな
群馬県みなかみ町　細谷　龍夫

362 あつあつの牡蠣鍋を食すテレビ見てうどん温める介護のひるげ
群馬県みなかみ町　原澤　朝則

363 電柱に我を見下し鳴く烏無為の一日嘲けるように
群馬県みなかみ町　原澤　朝則

364 改修を終えし溜池水湛え木々の紅葉水面に映す
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

365 山峡の古刹に残る大銀杏五重塔と競い聳える
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

366 山間のダム湖に映ゆる紅葉山朝日をうけて輝きを増す
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

367 星月夜見上げる宙の中に居る吾も銀河の旅人ひとり
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

368 山峡に紅葉燃える露天の湯そよ吹く風にせせらぎを聴く
群馬県みなかみ町　原澤　芳雄

369 吾の振る鍬先に雉子は来て餌をあさりをり恐れもせずに
群馬県みなかみ町　小林　博子

370 **休日にまだ早けれど帰り来てスタッドレスタイヤに子は取り換へくるる**
群馬県みなかみ町　小林　博子

371 肺癌の手術の後の三年を命励まし生き来し夫よ
群馬県みなかみ町　小林　博子

372 風になびく枝垂れざくらの花の下に余命短かき夫とたたずむ
群馬県みなかみ町　小林　博子

373 肺癌に死にたる夫よこんなにも小さくなりて孫に抱かるる
群馬県みなかみ町　小林　博子

374 牧水に山の名答う少女おり一〇二年前の「直子」さんのこと
群馬県榛東村　岸　和夫

375 バイクにて法衣なびかせかけぬけるヘルメットより見ゆる白髪
神奈川県横浜市　髙山　克子

376 ちらし折り紙飛行機を空高く飛ばす老らは少年となる
神奈川県横浜市　髙山　克子

377 陽の光そよぐ若葉を通り抜けわがリハビリの窓に入り来し
神奈川県横浜市　髙山　克子

378 俵万智氏秋の褒章ぞ受けられし今大会は行こうみなかみ町
東京都杉並区　堀井　邦子

379 タイガース38年ぶりの日本一吾も六十年ファンなり来て
東京都杉並区　堀井　邦子

380 阪神の優勝に湧く関西か友人の夫も昔はレギュラー
東京都杉並区　堀井　邦子

381 タイガースファンわが住む杉並にもおられゐて興味津々話の弾む
東京都杉並区　堀井　邦子

382 吊り革に身体をあずけ目を閉じて揺れてまわればバレリーナみたい
埼玉県春日部市　藤澤　由紀

383 姉からのそば殻枕今宵又耳を埋め聞く姉妹の会話
群馬県みなかみ町　澁谷　典子

384 八才で母と死別の母さんは指跡残る麺棒と生く
群馬県みなかみ町　澁谷　典子

385 季は巡りもみがら焼きの煙たつ山峡わが里冬に入り行く
群馬県みなかみ町　澁谷　典子

386 百年を農一筋に生きた叔母菊に囲まれ小春日に逝く
群馬県みなかみ町　澁谷　典子

387 藤井棋士八冠達成堂々と着こなす和装所作の美し
群馬県みなかみ町　澁谷　典子

388 利根川の傍に咲き初む冬桜暮れゆく空にほのかに白く
群馬県みなかみ町　石坂　喜美江

389 わが思ひ全てを包み流れゆく利根の川辺に今日も佇む
群馬県みなかみ町　石坂　喜美江

390 秋深き日ぐれ迫りく宮野城跡とりでに立ちて兵しのぶ
群馬県みなかみ町　石坂　喜美江

391 咲く花の香りに満ちて風さやか岳は輝やき田に水を張る
群馬県みなかみ町　真庭　唯芳

392 枯尾花谷川颪にざわめきて白き炎は大空に立つ
群馬県みなかみ町　真庭　唯芳

393 寺の池熟柿が落ちた水音に虫の音止まず恋の歌垣
群馬県みなかみ町　真庭　唯芳

394 暗い空谷川颪落葉舞う里に灯りが今日も暮れゆく
群馬県みなかみ町　真庭　唯芳

395 夕日落ち虫の音絶えて星見えず岳の頂うっすら白し
群馬県みなかみ町　真庭　唯芳

396 公園の野点の席に呼ばれ入るお茶一杯が至福の時間
群馬県みなかみ町　真庭　三枝子

397 茂左衛門朝より賑あう縁日の老若男女の明るい笑顔
群馬県みなかみ町　真庭　三枝子

398 トリトンになりたい時は雨の降る市民プールで泳いでいた夏
新潟県長岡市　大竹　明敏

399 名を呼ばれＣＴ室に夫の消ゆ二度と戻れぬ彼方めざすがに
石川県金沢市　橋本　枝折

400 **語尾ひとつ定まらぬままポスト前　高く澄みたる終止形の空**
石川県金沢市　橋本　枝折

401 秋草に羽根をもがれたギンヤンマ灼熱の夏よくがんばった
長野県佐久市　依田　泰行

402 大会の特選の歌に付箋貼るこんな短歌がつくりたかった
群馬県渋川市　木暮　由利子

403 暁の富士に白鳥思ふかなヤマトダヒラと呼ばれし地にゐて
秋田県秋田市　篠田　和香子

404 公園の銀杏はすでに裸ん坊この週末はきっと雪だね
北海道札幌市　後藤　明美

405 和裁師なりし叔母の遺品の着物解く袂に残る綿屑は贅
島根県出雲市　金山　黎子

406 大阪の夜間高校遠足の写真に出合ふ「住吉大社」
島根県出雲市　金山　黎子

407 秋空に雲ひとつ無き文化の日ホールに友の歌声響く
群馬県みなかみ町　吉田　まゆみ

408 「もう無理」と言えずに笑顔つくり出す赤いりんごの傷を見ながら
群馬県みなかみ町　桜　子

409 愛猫が肥満になり過ぎダイエット「あれ、もう終わり」とじっと皿見る
群馬県みなかみ町　桜　子

410 日だまりのベットに丸くなる猫にしがみついたら埃のにおい
群馬県みなかみ町　桜　子

411 寝たきりの正岡子規の見る景色時間をかけて歌に詠み込む
群馬県みなかみ町　桜　子

412 洞爺湖に次つぎ上がる冬花火見上げてをれば歯の根が合わぬ
神奈川県座間市　蓮見　孝子

413 「この服を着て又外に出られればいい」とつぶやく母の面影
群馬県前橋市　久保田　桂子

414 朝顔のひとつ蕾むとひとつ咲き日々の暮らしを映し出すやう
群馬県前橋市　久保田　桂子

415 出雲まで揺られベッドの上と下兄妹で聴く夜のＦＭ
群馬県高崎市　イマミツ

416 小窓越し研いた言葉交わす父笑顔溢れて歓びの歌
群馬県高崎市　イマミツ

417 パタパタと起こされ開けたドアの先転生したのプラチナの月
群馬県高崎市　イマミツ

418 ラクダの背揺られ気分はアラビアンまみれまみれて砂の丘なり
群馬県高崎市　イマミツ

419 ふっくらとシワない顔を次々とほっぺを落とす祖母の花豆
群馬県高崎市　イマミツ

420 寝そべって観るＹｏｕ　Ｔｕｂｅ休日の朝のお尻はケラケラ笑う
埼玉県鴻巣市　秋山　楓

421 **「どこからも切れます」とある小袋の真実なのは一割未満**
東京都小金井市　伊藤　裕司

422 階にぴたりと伏した家蜘蛛の命あるかを案ずる暮らし
東京都小金井市　伊藤　裕司

423 俯ける蓮華升麻の花打ちて相馬山（やま）の麓の夕立激し
群馬県富岡市　石井　ふみ子

424 夕月夜しだれ桜のシルエット透きて移ろう朱鷺色の空
群馬県富岡市　石井　ふみ子

425 ワンピースの裾くしゃくしゃに巻き上げて人魚になれないまま海をゆく
神奈川県横浜市　小野　愛加

426 ウォッチングされて戯れあふイルカたちその一頭の名は〈れいわちゃん〉
熊本県熊本市　下城　公秀

427 早いのね雪割草よ割った雪は自分で片付けておいてね
東京都文京区　遠藤　玲奈

428 星空を定点観測しています　去年と違うあなたの装い
福岡県福岡市　吉崎　謙作

429 オクラらもナスもキュウリも地をまからんバッタもハムシもそを泣くらんぞ
群馬県高崎市　松本　由美子

430 尋常小をナナメに卒えた父母のともに愛した『昴』の一曲
群馬県大泉町　福田　成雄

431 エフエムに母を想ってリクエスト　ドリカムの歌「あなたのように」
群馬県みなかみ町　田中　春枝

432 冒頭のラジオネームに気を取られ司会の声は遠のいていく
群馬県沼田市　岡本　有未

433 かつみさん面白過ぎてハマっちゃうバカにされても凄い返しが
群馬県みなかみ町　篠原　忠

434 情報を入手したのはどこですか「ラジオを聞いて」にチェックを付ける
群馬県みなかみ町　大山　真紀枝

435 このコーナー終われば三時十分前コーヒーメーカー水差す合図
群馬県みなかみ町　篠原　香代

436 亡き父をうっかりトイレ散骨と真愛伝える日曜午前
群馬県昭和村　加藤　南風

437 仕事中昔懐かし歌謡曲流れてしばし追憶語る
群馬県みなかみ町　小林　はつ江

438 押し入れのカセットラジオ触れるたび「三日坊主」が指から伝わる
群馬県みなかみ町　本多　寿美枝

439 **ｒａｄｉｋｏから流れる声は聞き慣れぬ行きたい街のイントネーション**
群馬県片品村　金子　美由紀

440 無意識のホットラジオにいやされてお耳喜びピンピンはねる
群馬県みなかみ町　深代　里子

441 赤信号フロントガラスにあたる雨深夜のラジオと隣の寝息
群馬県みなかみ町　大山　智也

442 半分がラジオから成る我がいて81.3メガヘルツ今日も流れる
群馬県みなかみ町　小室　史

443 終戦をラジオで知ったあの当時日本再建熱き思いで
群馬県みなかみ町　宮﨑　りえ子

444 不治なると告知三年の病癒ゆが夢と醒めたる長夜の病室
群馬県安中市　新井　八重子

445 敗戦に芋・麦飯で飢え忍び過去の日本忘れていないか
長野県飯綱町　井澤　榮一

446 敗戦に幼稚園は閉鎖され野山駆け回り米寿近ずく
長野県飯綱町　井澤　榮一

447 播けなかった白菜の種病室の四角の空に向かって放つ
群馬県みなかみ町　松井　順子

448 牧水の足跡偲び遠き日に夫と辿りし暮坂峠
群馬県みなかみ町　松井　順子

449 探しもの得意な君はかくれんぼいつも勝手にオニとなりけり
神奈川県横浜市　赤野　恵祐

450 温みあるデイのみやげの団栗を笑顔の父は吾に握らす
長野県安曇野市　穂苅　真泉

451 朝焼けよ泣くな俺にはよく似合う傘と傘買う金がないのだ
神奈川県横浜市　山田　裕樹

452 遠くからフルートの息その横をドラムが走り去る　風の日は
島根県益田市　中村　風日（ふうか）

453 戒名を聞きつつ三人の俗名に語りかけおる年回忌かな
鳥取県米子市　生田　麻也子

454 そのママが独り暮しをしたやうに二十の孫が独り暮しす
福岡県大牟田市　西山　博幸

455 一輪車押し行くあした天からの褒美のやうに匂ふ木犀
福岡県大牟田市　西山　博幸

456 窓開けて過ごすいちにち木犀の香りあなたに届いてますか
京都府舞鶴市　鯵本　ミツ子

457 秋明菊ピンクの八重の欲しいとふ友と交換わさび菜の苗
宮崎県宮崎市　中村　葉月

458 右よりも左の眉が濃いことに気づかれぬまま友達でゐる
東京都文京区　原　ナオ

459 大屋根の朝に降り立つ大鷲の下で満ちたる吾子の産声
東京都三鷹市　みやもと恵美子

460 桑の実を摘んで頬張る幼子は赤き両手で雲掴みをり
東京都三鷹市　みやもと恵美子

461 さそわれて散歩に出かける妹の麦わら帽子の影が先行く
群馬県みなかみ町　本多　義二

462 パン焦がしストーブ上のフライパンレンジを開けて牛乳を飲み
群馬県みなかみ町　本多　義二

463 もういやだジェットコースターおりてからコーヒーカップひとり乗ってる
群馬県みなかみ町　本多　義二

464 明日は雨天気予報のスマホ消しテルテル坊主吊した頃は
群馬県みなかみ町　本多　義二

465 あのときのこわい話はよるラジオ自分の顔を懐中電気で
群馬県みなかみ町　本多　義二

466 **笑み交わし人と触れ合うひとときがふと重たいと思う雪の日**
秋田県秋田市　蓬田　真弓

467 母おわす山の施設にこの秋は熊が来ぬよう日々祈りおり
秋田県秋田市　蓬田　真弓

468 木枯らしに葉は飛ばされど木蓮の冬芽かがよう和毛透かして
秋田県秋田市　蓬田　真弓

469 体力の衰えを知る出来事が今日も起こりし老いを知ろうと
群馬県高崎市　塚越　小枝

470 熱のない炎がふいに迫りくる君に逢いたいような夕焼け
京都府京都市　小池　ひろみ

471 映画見て娘と二人お茶するも息子と二人は一度もなけり
大阪府柏原市　田倉　あけみ

472 あの世への往復切符あるならば今すぐあなたに会いに行きたし
大阪府柏原市　田倉　あけみ

473 隙をつき猫がときどき此処へ来る仕方ないけどいつも手ぶらだ
秋田県秋田市　佐藤　宏基

474 入れ歯入るその日記念日結婚日金婚迎え沢庵ガブリ
宮崎県宮崎市　青山　昌子

475 めひかりは目玉丸マル皿の中黒猫咥え塀を越し行く
宮崎県宮崎市　青山　昌子

476 干柿はのれんのごとく並びたる合い間に見ゆる石鎚の山
宮崎県宮崎市　青山　昌子

477 「甘えるな」「対処出来る」のつぶてなり　我をむち打つ突然の雹
大阪府河内長野市　木村　嘉子

478 坂の道団栗一つ蹴り行かば憂いも連れて転がりゆけり
福島県いわき市　鈴木　椿

479 新色はまだまだ来ない行き過ぎる畑に多し耕運機の赤
宮城県山元町　太田　君江

480 **冬の枝ためらいもなく陽に伸びてそれができたら続いてた道**
埼玉県三郷市　湯島　京子

481 常夜灯　漕ぎ出すように二人掛けソファにあなたを迎えれば波
東京都武蔵野市　北谷　雪

482 吹割の龍宮伝説　それならば　なでしこを流す　母へ　元気と
群馬県高崎市　笠井　和子

483 リハビリの一と日のコース終し時有笠山に白き月出ず
群馬県前橋市　山口　タツ子

484 見たくない読まねばならぬ戦事記事嬰児並べて医の手なき様
群馬県前橋市　山口　タツ子

485 命より大事なものは何ですか　腕に名を書くガザの幼ら
群馬県前橋市　山口　タツ子

486 せせらぎの渦をようやく振り払いひとつの木の実流れゆきたり
埼玉県本庄市　白藤　巳玲

第七回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和６年（２０２４）３月 発行

編集／発行　若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒３７９－１３０５

群馬県利根郡みなかみ町後閑３２１－１

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話０２７８（２５）５０２５

令和５年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第７回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日　令和６年（2024）３月３日（日）

会　場　みなかみ町カルチャーセンター
　　群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主　催　若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

協　力　みなかみ町牧水会

後　援　みなかみ町・みなかみ町教育委員会・沼田エフエム放送株式会社・関東新聞販売 (株) マイタウンたにがわ ・（一財）三国路与謝野晶子紀行文学館・三成社株式会社